HAN'KEN SHOYU
NIHON MUSOU

實地研究
醫内外活

鍼灸秘傳書全

增補訂正第二版

大日本鍼灸藥研究會藏

特25
262
W2 203/3/12

序

西哲曰ク有リ一人ノ生命ハ全世界ヨリ重シ

之ヲ見レハ其人類各自カ生命ノ貴重ナルヤ論ヲ俟タサルナリ此ノ全世界ノ生命ヲシテ永ク全世界ヨリ貴重ナルヤ欲スレハ須ラク衛生ノ道ヲ保タシメント欲スレハ須ラク衛生ノ道ヲ講セサル可カラス

其衛生ノ道即チ無病健全ノ策ヲ講スル如何シテ可ナルヤ飲食ヲ節シ色慾ヲ制シ常ニ能ク其身体ヲ自衛接養セハ必スヤ無病健全ニシテ全世界ヨリ貴重ナル生命ヲシテ永ク全世界ヨリ

貴重ナルノ地位ヲ保ツヘキ理由ナルニ其ノ理由ノ如クナラサルハ何ソ哉人ハ疾病ノ器物ニシテ時ニ或ハ不意ノ感染ヲ免ル能ハサレハナリ況哉衛生ノ道ヲ全ク講スルヿ能ハサル者ニ於テヲヤ若シ人衛生ノ道ヲ謬リ疾病ニ感染スル有ランカ世ドクトル乏キニ非ス國手少キニ非ス然リト雖ヒ限リ有ルノ醫師ヲ以テ限リ無キノ患者ニ應ス時ニ或ハ期ヲ過ルノ恐レ之レ無シトセス香蘭史以爲ク如何シテカ疾病ヲ未萌ニ防キ重病ヲ輕症ノ内ニ治スルノ良策無カランヤト之ヲ慨スルヿ干茲年アリ之ヲ博ク内

外古今ノ方乘ニ鑑ミ無害特効ナル鍼灸藥ノ諸方ヲ纂集シ名ツケテ鍼灸藥秘傳書ト言フ項者來ツテ序ヲ余ニ請フ余之ヲ一閲シテ即知ル此ノ書ノ世ニ鴻益アルヤ衛生家ノ指針ニシテ疾病者ノ扁鵲ナルヿヲ琴溪中上氏言ルアリ醫ハ疾病ヲ治スルヲ以テ貴シトスト宣哉世人此書ニ依リテ疾病ヲ未萌ニ防キ重病ヲ輕症ニ療セハ又衛生ノ一端トナリ救濟ノ裨補トモナランカ全世界ヨリ貴重ナル生命ヲシテ永ク全世界ヨリ貴重ナルノ地位ヲ保タンヿ又疑ヲ容レサルナリ即チ一言ヲ書シテ之ヲ序トナス

明治廿有一年七月

備陽　松白居士

自序

人の尤も忌み恐るゝものは死なり死の原因を疾病にして疾病を來あすの因素を專ら不養生に基因すとか爲然れは人は常に能く養生てふ事をなさゞるべからす人は兎角疾病に罹りて始めて養生の事を思ひ出せとも疾病已に癒まればまた養生を忘するゝものなり是れを咽喉を過きて熱さを忘るゝものとや言はん凡そ人は疾病有るは天地の間は異變あると同一理にして到底免がるべからざる事なれ然ればにや人を小天地と言はなめり然れど天地

は異變は氣候の變化に基因するものにして人の力の能く及ぶ所から絲ども疾病はまだ是を醫するの道なきよあらず人もしあやはちて疾病よ羅るとばしあらば速かに國手を招きて治療を委だねざる可からず然れども遠村避邑の醫師に乏しき鄉里なりては時としては期に后れて時の間よあはぬ事無れを保をたずまた常よ能く心ろ掛けて病ゑぬ前よ灸などすゆれば重き疾病を免かる事も有るべしと是を憂ふるの餘ゑ夫の等人の爲めに一つの書藉を編纂して之を世よ公にし世の疾病有る人の一助と

なすになん穴賢

明治廿有一年七月

編者識

食物養生之說
住居之說
運動之說
入浴之說
鍼術九鍼畧說
灸穴点ゼる法
五臟色體の辨解
六腑の辨解
中風一切根治法
診脉の畧法
三部九候の辨解
腹の見樣の辨解
四知の論辨
十四經脉の辨解
周身骨度尺寸定法
諸穴處の辨解
患門四花腰眼風市の穴法
肺病幷に嗽咳を治する法

●針灸施法之部

諸氣一切治する法
瘧疾を治する法
痢病を治する法
痰飲を治する法
霍亂を治ゼる法
喘息を治する法
飲食停滯を治する法
膈噎を治する法
吐血幷ニ鰒血を治ゼる法
虛損を治する法
下血を治する法
傷寒を治する法
泄瀉を治ゼる法
鬱症を治する法
癇病を治する法
くるうかちを治する法
遺溺を治ゼる法
遺精を治する法
秘結を治する法
五痔及ゼ痔漏を治する法
脫肛を治する法
痃癖を治する法

健忘を治する法
眩暈を治する法
癲癇を治する法
狂亂を治する法
胸痛を治する法
脹滿を治する法
疝氣及ひ疝癪を治する法
脚氣を治する法
痛風拔治する法
腰痛を治する法
眼目を治する法
瘰癧を治する法
子宮を治する法
癪聚を治する法
黃疸を治する法
咳嗽を治する法
頭痛を治する法
白赤帶下を治する法
乳汁不足を治する法
驚風拔治する法
五痢を治する法
かたかいを治する法
聾耳を治する法
齒痛を治する法
其他は畧す

●妙藥法之部

中風を治する妙法
脚氣を治する妙劑
疝氣を治する奇方
傻麻質斯の神方
痛風を治する妙藥
肺病を治する方
癈咳を治する妙方
流行病豫防する法
鼻疾を治する法
癲病を治する秘方
肝藏病を治する方
痼飲及胃病を治す方
梅毒を治する妙藥
癪氣を治むる良方
口中の惡臭を去る法
小兒五疳を治する法

黄疸を治する方
胸痛を治する妙方
痰せきの妙薬
喘息を治する妙劑
五痔の妙薬
脱肛を治する妙方
癇病を治する妙方
寐小便を治する方
妄想を治する妙方
瘧疾落〳〵の妙薬
眼病を治する妙法
風癩を治する神方
痩身肥する方法
肥過ぎる身を痩る法
いんきんた虫を治する劑
錢田虫を治する法
がんがさの妙薬
疣黒子を抜く法
疱瘡の寄溜を治する法
疥癬を治する妙薬
面瘡及諸瘡を治する方
聾を治する妙劑

齒痛を治する妙法
小兒を早く歩行さす藥
頭髮の兀げたるを生ずる法
赤毛を黑くする妙方
毛生藥の妙方
白髮の拔跡へ黑毛生する方
髮の短きを長くする奇方
頭髮の縮みを直す法
髮の拔けるを留る妙方
白禿瘡を治する妙方
汗の出るを防く妙藥
小兒の咳を治する妙方
眉毛の拔たるを生する法
齒の生へざる時生る方
ざくろ鼻を治する方
あざ拔とる妙方
ひゞあかぎれを治する法
霜燒けの妙方
にきびを取る妙藥
面部のうばかすを治す法
白黑のなまづ拔治する方
うげ癪きの妙藥

寢汗を治する妙方
腋臭を治する妙方
燒とゞの妙方
聲を出す妙薬
熱病豫防法
懷胎さす妙薬
乳の出る妙方
色を白くしきめを細に艷をよくする新法
日に照さるゝとも日にやけざる新法
西洋美人水はゑる程色を白く艷を出す新法
絶食の新法
吐血を治する妙方
鼻血の妙薬
物を記臆する妙方
虎列刺病豫防方
消渴を治する妙方
陰門の痒きを治する方
陰風を除く奇方
中風豫防法妙薬
卒中妙薬
脹滿の神薬
又方
又方
産后の諸病を治する妙劑
子宮病一切の新法
さなだ虫を下す妙劑
又法
月水の不順を治する妙法
こしけの薬
安産はやめ薬
血の道一切の妙法
驚風の神薬

食物養生之概說

凡そ世界に壯健で長壽をる程幸福なことは有ません故に諸君等は皆ん〻を希望致さるゝが是には別段秘法も秘傳も妙藥も外く只自から養生を善くなされば御望の通り無病で長壽は必ず出來るに違ひはありません偖て其養生の仕方は委しく書くにはなか〳〵一朝一夕には出來ませぬ故肝腎のとこのみ御話し申さ升先づ養生の第一は食物で有ます食物は身体の滋養になる消化のよき物を注意して喰ねはなりません縱令美味の品にても不消化物は喰ぬ樣にするが宜さ又食事は毎日其刻限を過ま

らぬ樣同時にするこの肝要縱令多忙なれ共食事中は氣を

落着て何品にてを口中にて細かゝ嚙み柔けて呑込み何程美味の品如何程滋養食物にても間むだには勿論三度〳〵腹一盃喰ては其功なきの奚ならず却て病の種となり升依てをう一盃ほ〳〵ひもう一ッ喰たひと思ふ處で止めて置のが無病長壽の靈藥で有升、第一飯を軟らなるを〳〵飯菜は種々取交て喰がよろしひ一ッ物は惡〳〵、油濃き物は都て一色を喰ぬ樣にをるが肝要で有升、毎日同物斗り喰よりは品を替へて喰ふが藥りになり升、味噌汁や香物は喰ぬ方が宜〳〵、酒は少〳〵にても呑ぬ方が宜ろ〳〵、餅菓子だんご、うどん、うば、ろうめん、も多くは宜〳〵くなし、食事の際茶水及び汁物を多〳〵飲べば食物の消化が惡〳〵、熱

物は何に品にても飲食すれは食道を損ひ胃の働きが鈍〳〵なり升、肉類の滋養多きは第一を牛肉とす第二は羊鹿猪肉やす豚と家鴨は不消化物で有升、鳥肉は鶏肉を第一とす第二は雁、鴨、雉子で有升魚肉も總て鳥獸の肉をり滋養の功も薄弱なり貝類は總て不消化物なゝ併〳〵牡蠣は大に滋養分あり生にて喰へは牛乳や鶏卵よも勝る干鮑やそるめは不消化物其他は乾魚類もなる丈け喰ぬ樣にすべ〳〵菜蔬は肉類をゝ消化遲ち物なれ共穀肉ゝ交へて食へは大に滋養の功あり芹、三葉、油菜、筍の類は總て筋の硬き物は細かゝ刻み能く煮熟〳〵て喰べ〳〵生熟は惡る〳〵芋類、大根牛蒡、紅蘿蔔、茄子、冬瓜、大角豆、の類は能く煮熟

をよまとす唐がらし、生姜は常に少しつゝ食へと食物の消化を助けるものなり總て茸類は能く煮て喰へは害なき其他菌の類は喰とざるに若ず菓物は十分成熟きたる新しき物を喰ふべし梨、柿、蜜柑、葡萄、桃、林檎、等は何れも功能ありて穀肉を助け滋養を補ふものなり併し未熟の菓物は總て毒ある者かり又露店にて日に晒したる菓物殊に瓜西瓜、等は心ある人は決して手に取るものに非ず以上諸君に概略を話したる外に晝夜寸分も喰ずに居れば直に命に拘はる大切な食物は空氣で有升是又腐敗せざる新しき品を撰まねはあるませぬ常に腐敗きたる空氣を呼吸する時は何時とおく身体に毒を生し氣力衰へ或は勞症となり或は瘰癧、僂癖質斯、黄疸、咳嗽などの病を發しまた又コレラ傷寒、痢病、其他流行病も移り易く實に危きとなり然るに世の養生家は往々魚の腐りたるや水の濁りあるをばやかましく云ひながら空氣の腐敗して毒の有とも一向に構はぬは愚あるも又甚たし

●住居の概説

住居は風の能く流通して清潔なる所を撰み久敷淀へぬ掘や流の惡き溝川、古池、沼、塵溜等をり不潔なる空氣の絶ず立ち登る者なり身体を大事と思ふ人は右は汚穢なき樣に注意すべし又竈、火鉢等より出る炭酸氣は大に健康に害有、又人は息と總身の毛穴をり出る氣にも毒あり故

に多人數を一間の内ゑ集め火鉢煙草盆等に炭を多ゑ熾〻戸を〆切て居れは忽ち頭痛眩暈の症を發す此時は早く戸を開ひて空氣を入れ替へざれば終に生命を害するなり●稠密なる家屋の裏汚穢かる小家に月日を送る者は恰も濁り水ち底に住ゑ蛆虫の如く自ら其氣に馴れて是を苦とも思はざれ共高爽なる場所に住居する人よりも氣力も薄く精神も劣ゑ流行病かども早く染る者なり

●運動之概説

養生ゑ於ゑ尤も肝要なるは運動なり醫へ空氣の喜處に住み滋養物を喰ぬとも常に一室の内ゑ籠り讀書に日を暮す人又懶惰に〻て安逸を好み身体の運動をなさゝる者は血の廻り漸々に惡くなり力量ゑ衰へ溜飲又は神經病等を起〻遂に短命の基と成るべ〻偖て運動ち方法は毎朝早く起て六七丁位むの所を散歩ゑべ〻併〻食事前は体の疲れる程運動すべからす運動するにゑ杖鞭などを振りながら歩くをよしとゑ乘馬ゑ尤もゑ〻車は中位ひなり●總て着物は緩やかに着〻帶紐かどは堅く〆過きるは甚ゑ宜〻からず冬向きは襟を能く合せて胸に風の當らぬ様注意すべ〻

●入浴の概説

入浴ゑ時候に依り毎日か二日三日目ゑは必ゑ入浴〻て

身体を清潔にするは養生の尤も肝要なり然るにたゞ〳〵入湯すれば油が拔けて力らが弱るゝと云ふ者あり誤まるも甚た〳〵總身より出る油は甚た不潔に〳〵て其上に垢が粘着すれば毛穴を塞ぎ蒸發氣を妨け大に健康を害する者なり但〳〵入浴は早朝か夜る寐る時を〳〵とす食後滿腹の際は宜〳〵からす湯の温度は九十度より百度迄を宜とす冷水浴は尤も身体を强壯にするの功あり併〳〵老人嬰兒又は生質柔弱なる人には宜〳〵からす總て水を浴〳〵たる跡にて總身の温かにならぬ位むの人には只其効なきのみならす却て害ある者とす

右は誠に概畧おれとも之れを能く守りて養生をなせば無病て長命の出來ると及ひ大抵の持病は自から全治〳〵て柔弱の人も壯健になるは諸君に誓て著者か保證する處なり

●鍼術九鍼畧說

●鑱鍼長さ一寸六分熱の頭身に有を刺て陽氣を瀉す
●圓鍼長さ一寸六分間の氣を揩摩〳〵肌肉を傷らす
●提鍼長さ三寸五分脉を按〳〵氣を取て邪氣を出す
●鋒鍼長さ一寸六分　疽の熱に刺〳〵て血を出す
●鈹鍼(長さ四寸巾二分半)　疽に天膿を取るに刺す
●員利鍼長さ一寸六分　痺を治取暴氣を取るに用ゆ
●毫針長一寸六分寒熱の痛痺經絡に有に用ゆ

●長針長さ七寸深き病遠き痺痛を取に用ゆ
●大針長さ四寸水氣關節を出ざるを瀉す
鍼經に云く九鍼の宜く各用ゆべき處あるに大小長短各其施すべき處あり然れども初心の容易に行ふと能はず故に今爰に出すは其肝要を畧まて荒增を出す先初心に用るは大畧管針を用ゐ其手術法左に
●先我志を靜め正姿まて両手の脉を取(脉を取〳〵さつうかゞゐ樣奥に出す)能々うかゞひ又腹を能々按うゐゝひ其後右の足を立左の足を〳〵き針先を口まふくみ左の手まて腹をうかゞゐ針すべき穴を大指の爪の角にて五六呼の間其穴を按じ中指と大指とにて管を穴の上にあて針を管に入れ右の人指を中指の後ろに重ね人指のはらにて鍼の軸を彈き下すべ〳〵うかゞふて下せは痛むなり一競にはじ𡿨下すべ〳〵管は大指と人指とにて中をもち中指まて肉を捍へ針を彈き下まて管を拔き右の人指と大指まてひ絲り下すべ〳〵此時呪文曰く●帝扶天形護命成靈と三扁唱に念〳〵て撚り下す撚る斗まても大体病は吉●鍼經まに云く針大まに深く刺は布而邪氣ゝつみ病彌々增と有り針は大抵ゑり少〳〵太き吉細きは中〳〵はりてかへつて針口痛む小兒は別而細少なる針まて只かろく皮肉の氣を拔く斗ゑにて吉亦積氣抔にて堪がたく甚嚴まに痛む時は其痛處より一二寸外の穴に刺すべ〳〵若〳〵痛

處の穴に刺ばかへつて痛增と有心得べし、偖針を拔く時少し拔出して又針の中程を持直し靜に拔出すべし尤中指にて能々按もむかり是を針口を閉ると云ふ針を拔と手あらければ血出る是を榮衛を破ると云ふ若血出れと何度もゝみとゞべし、此外大体鍼針三稜針を用ゆべし隨分針を淺く遣い只皮肉の間の氣血をぬくべし若惡血より又腫れをなさは三稜針一分余出して打針の方法にて處の穴を刺べし亦常のこりには針先を管より二厘斗出し脊井脊中脊骨兩傍此あたり數々叩きて吉手曲池すじ足の三里すじを叩て吉亦種物穿むとあらは鍼針にて切るべし、小兒虫切と同針先輕多行ひ皮肉の間を切血氣を拔くべし

◉灸穴点する法艾草用る心得

灸穴点るには天氣好く風强からず大雨ふらざる時術者心を靜め正しく收め兪穴を能々思慮し患者の身躰少もかゞふかず眞直よして分寸を量て兪穴を定め指にて穴を按すに指の下陷み患者の心に快くこたゆる處是穴に當るなり偖其穴處へ筆の先にて少し印を付置其人の職業働に依少しく左右不同有るものなり能々心得べし又其穴所に付次成る穴よも印を付譬へは肺兪の二穴を点するに次成厥陰兪亦上かゝ風門の穴に印を付得と見定え穴をさぐり然して点を定むべし所謂患者立て点せは

後灸をすゑるにを立すゑべ〳〵坐〳〵て點せば座〳〵ゑし臥〳〵て点せは臥〳〵ゑし左もなくは穴所違ふ者也倍々心得べ〳〵艾草は古きか吉前々買置三年已前五年已前より買求たくは〳〵置尤七年十年古き程宜灸火は天の火是最上たり其他胡麻油ゑて燈火最吉種油は次なり但〳〵せん香に長くつけて置けは何の木の火にても可なり

●五臓の色體の辨解

●肝 木 春 青 東 眼 酸 温 怒 魂 泣
●心 火 夏 赤 南 舌 苦 暑 喜 神 汗
●脾 土 土用黄 中央 唇 甘 濕 思 意 涎
●肺 金 秋 白 西 鼻 辛 燥 憂 魄 涕
●腎 水 冬 黑 北 耳二陰 鹹 寒 恐 精 唾

●六府の辨解

●膽の腑は肝ゑ屬す●小腸腑は心に屬す●胃の腑は脾に屬す●大腸の腑は肺に屬す●膀胱の腑は腎に屬す●心包絡の腑は五臓に屬す

●診脉の畧法

男は左女は右の手より診そるなり先指を浮て取に浮み通るは氣の往來なり是を按〳〵て見るは力ゐにて强大なるは氣の實なり又力なき弱きは氣の虛なり亦指を少〳〵按〳〵沉めて取に力あつて底にあるは血の實なり又力かく澁りて弱きは血の虛なり此診脉考るは衛榮を候はゞ

云ふ凡呼吸一息の間ゑ脉四動は平脉なり大方より早きは熱實なり迂きは寒の虛かり

●三部九候之辨解

醫者の人指の當る處を寸部とし中指の當る處を關部とし無名指の當る處を尺部とす是を三部と云ふ其一部毎に浮中沉の診法あり是を九候と云ふ浮はうかめて候ふ沉はしづめて候ふ中も浮ならず沉ならず中にして候ふなり偖左の手は寸口は心や小腸とを主る關部は肝と膽やを主る尺部は腎と膀胱を主る右の手の寸部も肺と大腸や共主る關部は脾と胃とを候ふ尺口は命門と三焦とを候ふ六腑は陽にして外ゑあり故に指を浮めて六腑を候ひ五臟は陰にして內ゑあり故に指を按して沉めて五臟を候ふ

●腹見樣の辨解

病人を仰向に臥さしめ足をのばさせ兩手を股の脇へ付て心をしづめさせ偖男は左女は右の乳の下を手の平もらにて押へ患者の心をしづめ息四五呼して手を下し上院のあたりより押へしづかに左右を候ふ快況は虛なり痛況は實なり輕くおして痛むは邪表にあり重く押へて痛むは邪表ゑあり臍より胸の間すきて下ふくれて押へたへ有は腎精の實にして吉胸の下ふくれ臍の下すきたるは腎の虛なり臍の上下なれ合て押へでたへ有は無病の

人なり吉式は堅皇又猥りに和らか成を凶〳〵又筋張立は性氣の虛なり偖臍の下關元の處指先にて押て見るに力おを空虛ゑまて中くぼに清をなす樣成指先陷るゑうなるは死に近し壽長く保たす此穴は天の一元の氣受始る處一身の一極とも云ふ處なり難經ゑ云く臍の下腎間の氣は乃ち人性の生命を主る十二經絡の根本たり

●四知の論辨

難經に云く神聖工巧望聞問切四知と云ふ問を是を知る工と云ふ脉を切に〳〵て此を知を巧と云ふ望て之を知を神や云ふ聞て之を知を聖と云ふ偖面青ゑは腹中の痛み赤きは熱なり黃なるは脾胃の虛なる白き腹中寒肺の虛なり黑ゑは腎の傷れなり亦五臟内ゑ有て五聲をあらはす病人聲を聞て腹中の病を知る哭聲清涕鼻ひるは肺に屬する病と知る聲ゑよたれ多きは脾の病怒て涙多きは肝の病唾多くうなるは腎の病喜てゑは言いふは心の病なり

●十四經脉の辨解

手の太陰●手の陽明●足の陽明●足の太陰●手の少陰●手の太陽●足の太陽●足の少陰●手の厥陰●手の少陽●足の少陽●足の厥陰●督脉●任脉●以上十四經脉なり起動所左に

●手太陰脉は中焦に(臍の上四寸有)起り大腸を絡ひ胃口

をめぐりて肺に屬す●手の陽明の脉は大指より次より指の端に起り指の上廉をめぐりて合谷の兩骨の間に出て上て兩筋の中より入むぢの上かどをめぐりて肩より上り肩骨より前廉出て下りて鉄盆より肺を絡ぬて胸に下り大腸に屬す●足の陽明の脉は鼻柱の中に起る鼻の外上齒の中に入唇を限ぎりて承漿に交叉却てをとがひ下より處々を限り鉄盆より入膈より下り胃より屬し肺を絡ぬ●足の太陰脾胃の脉は大指の端より起り指の内傍を経ぐりて脣の内に上り厥陰の前に交り上りて腹の内かどをめぐりて腹に入り脾に屬す胃を絡ふ●手の少陰心脉は心中に起り心系に屬し胸に下りて小腸を絡ふ●手太陽の脉は小指

の端に起て手の外つらをめぐりて腕に上り肘の内のは兩骨の間に出て上肩骨を限り心を絡ぬ咽をめぐり胸に下り胃にたれて小腸に屬す●足の太陽膀胱の脉は目頭より起り額より上り耳の上角に到る腦を絡ふ却而項に下る肩をめぐりて脊をさみて腰にいたり膂をめぐり腎を絡ぬ膀胱に屬す●足の小陰腎の脉は小指の下より起り斜に足の穹らに趣く然谷より下に出内踝の後にめぐり別れて踵に入てぶらより上り股の後に上り脊を貫き腎に屬し膀胱を絡ふ●手の厥陰心包絡の脉は胸中より起り心包に屬し膈を下りて三焦を絡ぬ●手の少陰三焦の脉は無名指に起手の甲腕をめぐりて肘を貫き外とけらをめぐり肩

より上りて膻中に交へ散〜て心包を絡ひ膈に下て三焦に
屬す●足の少陰膽經の脉目尻より起り上りて頭に抵り
耳の後に下り頸を巡り肩の上に至り却て鉄盆に入る其支
は耳の後より前を走て目尻の後に出る一支は別れて手
の少陽に合〜頰車に加て頸を下り鉄盆に合〜胸を貫き
肝に絡ひ膽に屬す●足の厥陰肝經の脉は大指の上に始
て足のうらをめくりて踝に上り膝の内かどより股を
めくり陰中に入小腹より抵て胃を狹みて肝に屬〜膽を絡
ふ●督脉は會陰より起て脊中に上りて風府に至り腦に
入る額をめくり鼻柱に至て陽脉の海より屬す●任脉は會
陰より起りて毛際に上り腹の裏をめくり關元に上り鳩尾
經て喉に至て陰脉の海に屬す

●周身骨度尺寸定法

兩眉の眞中より脊の大推迄長き元結を以て量り此尺寸
一尺八寸是を十八に折て其一折を一寸とし余を此にな
ぞらゑ●髮より傾ひ迄長一尺十ふに折一折一寸●耳の
上にて頭の丸み二尺六寸卽廿六に折一折一寸是れ頭の横
の寸とし●喉の高骨●結喉より●結盆迄四寸けつぼん
よりけづう迄九寸●けつづうより●天樞迄(卽ち臍なり)八
寸●天樞より●横骨迄六寸兩乳の間か九寸●胸の廻り
四尺五寸●腰の廻りか四尺二寸●脇下より季脇迄一尺
二寸●脊骨都而二十二節小推也も二十四節●大推より

●長強迄三尺●肩より●肘迄一尺七寸●肘より●腕甲迄一尺二寸●手首より●中指の本節迄四寸●中指本節より指の先迄四寸半●腰の前●横骨より股の内かど迄一尺八寸●股の内かまち下廉迄三寸半●下廉より●内踝迄一尺三寸●膝より●内踝迄一尺六寸●内踝より地迄三寸●足のうら長さ一尺二寸廣さ四寸とす●周身寸尺は用ひ方頭は頭の寸脊は脊の寸胸は胸腹は腹手は手足は足の寸皆夫之其所ゟ寸尺に穴法を取べ〳〵●中指の寸口の寸手掌の寸等種々有と雖之は用るゟ足らず併ら秘傳の方は此限にあらず

●穴法名處之辨解

●頭部中行十穴

但〳〵右。此印は禁灸穴左。此印は禁鍼穴 ▲此印は妊婦禁灸鍼

●神庭。一穴 ●上星 一穴 ●顖會。一穴 ●前頂 一穴
●百會 一穴 ●後頂 一穴 ●强間 一穴 ●腦戸。一穴
●風門。一穴 ●瘂門。一穴

●同二行十四穴

●曲差 二穴 ●五處 二穴 ●承光。二穴 ●通天 二穴
●絡却。二穴 ●玉枕。二穴 ●天柱。二穴

●頭部三行七穴左右十四穴

●臨泣。二穴 ●目窓 二穴 ●正榮 二穴 ●承靈。二穴
●腦空 二穴 ●風池 二穴 ●天牖。二穴

●頭側十一穴左右廿二穴

●本神 二穴　●頭維。二穴　●頷厭 二穴　●懸顱 二穴

●縣釐 二穴　●曲髮 二穴　●率谷 二穴　●天衝 二穴

●浮白 二穴　●竅陰 二穴　●完骨 二穴

●頭部耳後四穴左右八穴

●角孫。二穴　●顳息 二穴　●瘈脈 二穴　●翳風 二穴

●面部中行六穴

●素。髎 一穴　●水溝 一穴　●兌端 一穴　●斷交 一穴

●承漿 一穴　●廉泉 一穴

●面鼻側四穴左右八穴

●攢竹。二穴　●清明。二穴　●迎香。二穴　●禾窌。二穴

●面部烏睛通六穴左右十二穴

●陽白 二穴　●承泣。二穴　●四白 二穴　●巨窌 二穴

●地倉 二穴　●大迎 二穴

●面部五穴左右十穴

●絲竹空。二穴　●瞳子 二穴　●顴 。二穴　●下關。二穴

●頰車 二穴

●面部五穴左右十穴

●客主人二穴　●和窌。二穴　●耳門 二穴　●聽宮 二穴

●聽會 二穴

●頸喉二穴左右四穴

●人迎。二穴　●水突 二穴

●頸喉四穴左右八穴

●扶突 二穴　●大鼎 二穴　●天容 二穴　●天窓 二穴

●肩背十二穴左右廿四穴

●肩井。二穴　●巨骨 二穴　●肩髃 二穴　●天宗 二穴

●肩窩 二穴　●肩中俞二穴　●肩外 二穴　●曲垣 二穴

●秉風 二穴　●天宗 二穴　●臑俞 二穴　●肩貞。二穴

●脊中行十三穴左右廿六穴

●大推 一穴　●陶道 一穴　●身柱 一穴　●神道。一穴

●靈臺。一穴　●至陽 一穴　●筋縮 一穴　●脊中。一穴

●懸樞 一穴　●命門 一穴　●陽關 一穴　●腰俞 一穴

●長强 一穴

●脊二行十七穴左右三十四穴

●大杼。二穴　●風門 二穴　●肺俞 二穴　●厥陰俞二穴

●心俞。二穴　●膈俞 二穴　●肝俞 二穴　●膽俞 二穴

●脾俞 二穴　●胃俞 二穴　●三焦俞二穴　●腎俞 二穴

●大腸俞二穴　●小腸俞二穴　●膀胱俞二穴　●中膂內二穴

●白環俞。二穴

●脊八窩の穴法左右廿八穴

●上窩 二穴　●次窩 二穴　●中窩 二穴　●下窩 二穴

●脊三行十四穴左右廿八穴

●附分 二穴　●魄戸 二穴　●膏肓 二穴　●神堂 二穴

●譩譆 二穴　●鬲關 二穴　●魂門 二穴　●陽綱 二穴

●意舍 二穴　●胃倉 二穴　●肓門 二穴　●志室 二穴
●胞肓 二穴　●秩邊 二穴

●腹中行穴法廿二穴

●天突 一穴　●璇璣 一穴　●華蓋 一穴　●雲宮 一穴
●玉堂 一穴　●膻中。一穴　●中庭 一穴　●鳩尾。一穴
●巨闕 一穴　●上脘 一穴　●中脘 一穴　●建里 一穴
●下脘 一穴　●水分。一穴　●神闕。一穴　●陰交。▲一穴
●氣海 一穴　●丹田。▲一穴　●關元。▲一穴　●中極 一穴
●曲骨 一穴　●會陰。▲一穴

●脇側の穴法左右十八〇

●瀾腋。二穴　●輙筋 二穴　●大包 二穴　●章門 二穴

●京門 二穴　●帶脈 二穴　●五樞 二穴　●維道 二穴
●居髎 二穴

●腹貳行穴法左右三十六穴

●氣舍 二穴　●兪府 二穴　●或中　●神藏 二穴
●靈墟 二穴　●神封 二穴　●步廊 二穴　●幽門 二穴
●通谷 二穴　●陰都 二穴　●石關 二穴　●商曲 二穴
●盲兪 二穴　●中注 二穴　●四滿 二穴　●氣血 二穴
●大赫 二穴　●橫骨。二穴

●腹三行十九穴左右三十八穴

●鈇盆。二穴　●氣戶 二穴　●庫房 二穴　●屋翳 二穴
●舊窓 二穴　●乳中。二穴　●乳根 二穴　●不容 二穴

●承滿 二穴　●梁門 二穴　●關門 二穴　●大乙 二穴
●滑肉門二穴　●天樞 二穴　●外陵 二穴　●大巨 二穴
●水道 二穴　●皈來 二穴　●氣衝 二穴

●腹脇の穴法十三穴左右廿六穴

●雲門。二穴　●中府 二穴　●周榮。二穴　●胸鄉 三穴
●天谿 二穴　●食竇 二穴　●斯門 二穴　●日月 二穴
●腹哀。二穴　●大横 二穴　●腹結 二穴　●府舍 二穴
●衝門 二穴

●陰手の穴法左右十八穴(小指通の内側を)

●極泉 二穴　●青靈 二穴　●少海。二穴　●靈道 二穴
●通里 二穴　●陰郄 二穴　●神門 二穴　●少府 二穴

●陰手の穴法八穴左右十六穴(中指通りの内側ら)

●天泉 二穴　●曲澤 二穴　●郄門 二穴　●間使 二穴
●内關 二穴　●大陵 二穴　●勞宮。二穴　●中衝。二穴

●陰手の穴法大指通九穴左右十八穴

●天府。二穴　●俠白 二穴　●尺澤 二穴　●孔最 二穴
●列缺 二穴　●經渠 二穴　●大淵 二穴　●魚際。二穴
●少商。二穴

●陽手十四穴左右廿八穴(人指通の内側ら)

●臂臑 二穴　●五里。二穴　●肘髎 二穴　●曲池 二穴
●三里 二穴　●上廉 二穴　●下廉 二穴　●温溜 二穴
●偏歷 二穴　●陽谿 二穴　●合谷。二穴　●三間 二穴

●二間 二穴　●商陽 二穴

●陽手の十三穴左右廿六穴（藥指通外側ら）

●臑會 二穴　●消藥 二穴　●清冷。二穴　●天井 二穴

●四瀆 二穴　●三陽絡。二穴　●會宗 二穴　●支溝 二穴

●外關 二穴　●陽池。二穴　●中渚 二穴　●液門 二穴

●關衝 二穴

●陽手八穴左右十六穴（小指通り外の側ら）

●小海 二穴　●支正 二穴　●養老 二穴　●陽谷 二穴

●腕骨 二穴　●後谿 二穴　●前谷 二穴　●少澤 二穴

●陰足の穴法十一穴左右廿二穴（大指通り外側ら）

●陰廉 二穴　●五里 二穴　●陰包 二穴　●曲泉 二穴

●膝關 二穴　●中都 二穴　●蠡溝 二穴　●中封 二穴

●大衝 二穴　●行間 二穴　●大敦 二穴

●陰足十穴左右廿穴（大指通内は側ら）

●陰谷 二穴　●築賓 二穴　●交信 二穴　●復溜 二穴

●水泉 二穴　●昭海 二穴　●大鐘 二穴　●大谿 二穴

●然谷 二穴　●湧泉 二穴

●陰足十一穴左右廿二穴（大指通り外側ら）

●箕門。二穴　●血海 二穴　●陰陵泉。二穴　●地機 二穴

●漏谷。二穴　●三陰交 二穴　●商丘 二穴　●公孫 二穴

●大白 二穴　●大都 二穴　●陰白 二穴

●陽足の十九穴左右三十八穴（小指通りの外側ら）

●會陽 二穴　●承扶○二穴　●股門○二穴　●浮郄 二穴
●委陽 二穴　●委中○二穴　●合陽 二穴　●承筋 二穴
●承山 二穴　●飛陽 二穴　●附陽 二穴　●崑崙 二穴
●僕參 二穴　●申脉○二穴　●金門 二穴　●京骨 二穴
●束骨 二穴　●通谷 二穴　●至陰 二穴

●陽足の十五穴左右三十穴（大指次指の通り）

●脾關○二穴　●伏兎○二穴　●陰市○二穴　●梁丘 二穴
●犢鼻○二穴　●三里 二穴　●上巨 二穴　●條口○二穴
●下巨 二穴　●豐隆 二穴　●解谿 二穴　●衝陽 二穴
●陷谷 二穴　●內庭 二穴　●厲兌 二穴

●陽足十四穴左右廿八穴（小指と次指との通り）

●環跳 二穴　●中瀆 二穴　●陽關 二穴　●陽陵泉 二穴
●陽交 二穴　●外丘 二穴　●光明 二穴　●陽輔 二穴
●懸鐘 二穴　●丘墟 二穴　●臨泣 二穴　●地五會○二穴
●夾谿 二穴　●竅陰 二穴

●患門●四花●腰眼●風市の穴法

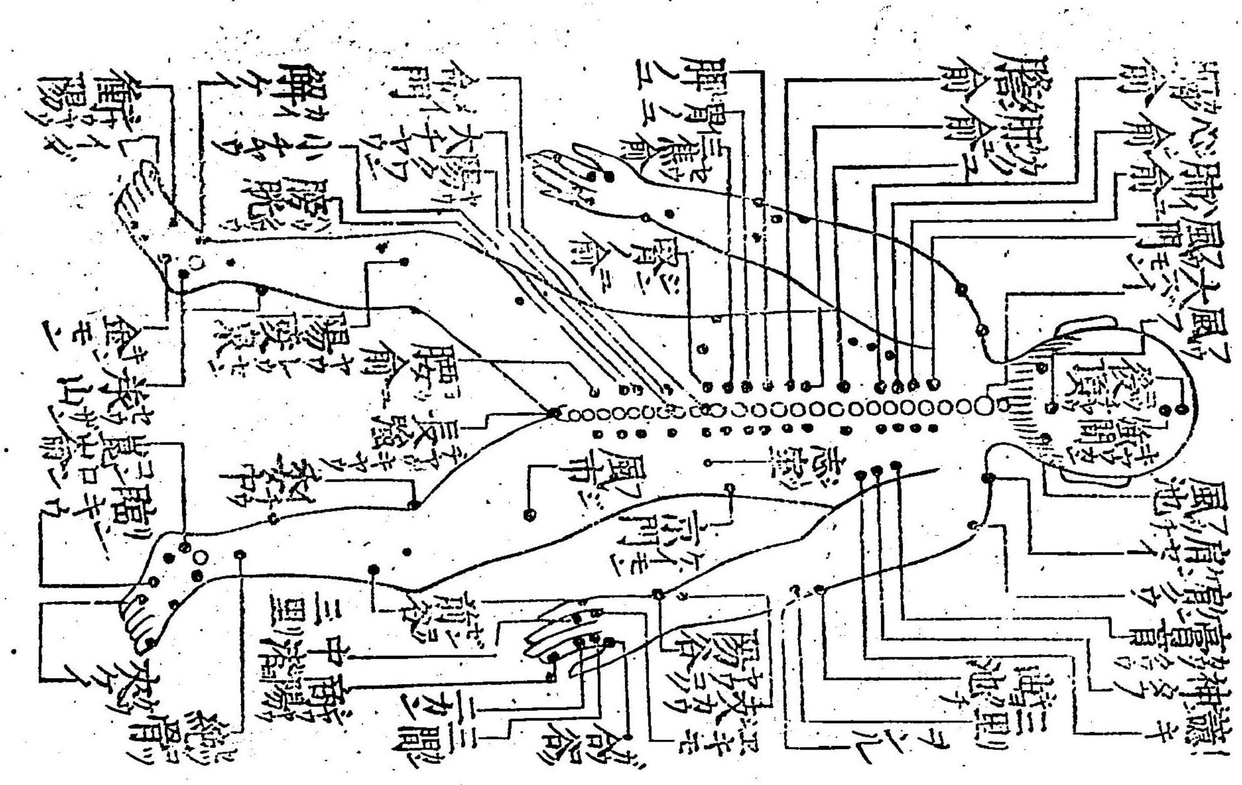
患門二穴之穴法　●元結にて尺を取元結を首に掛け前の方膻中の穴の一寸下當て其儘後へ廻し其當る處へかりに點〻偖短きまゝべゝて鼻とがりの下より口の兩わきへ〻如く山形なりゝ當此〻此山形の眞中をかゝ点ゝ當兩方へのばし其兩端が卽患門の二穴なり

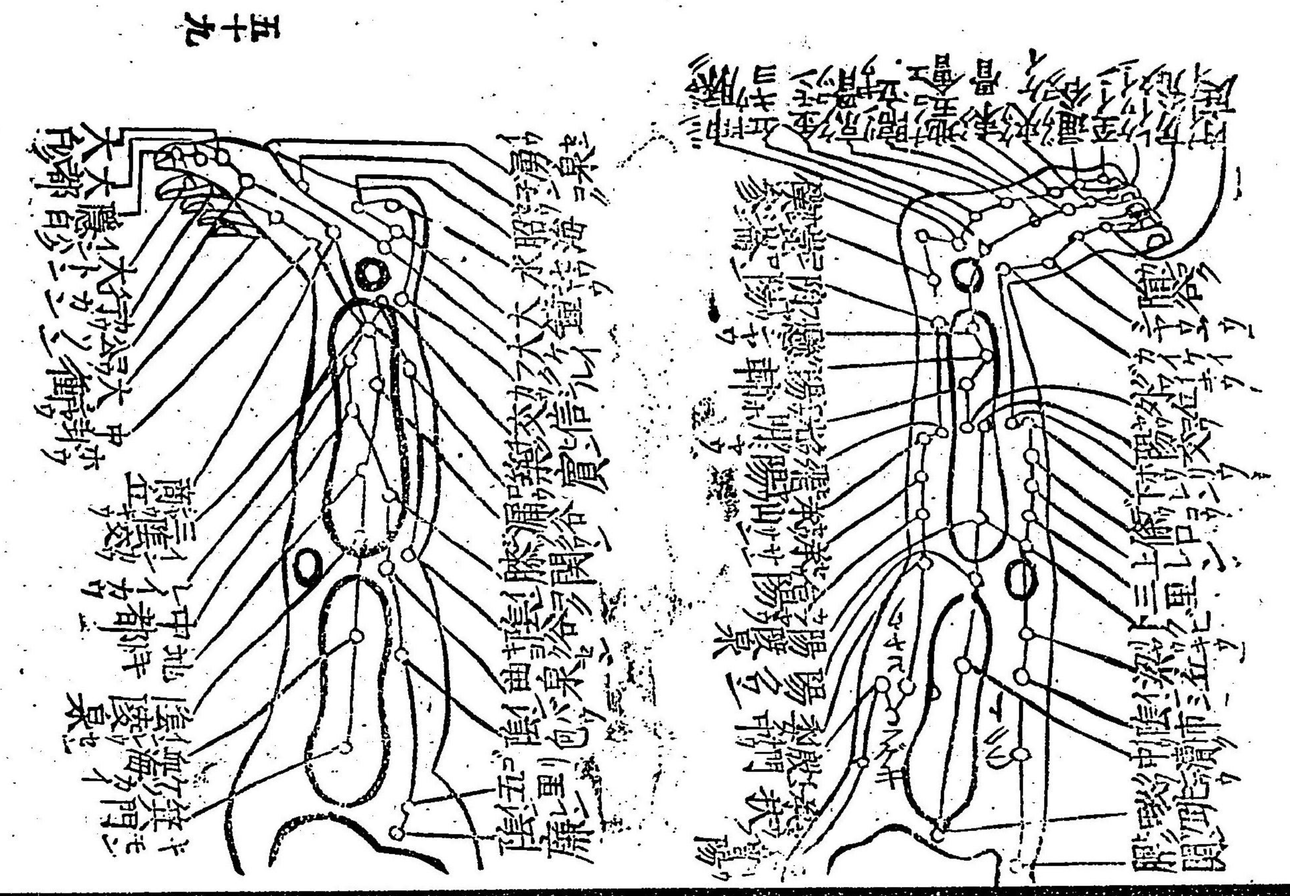
四花四穴の穴法　長き元結ゝて首に掛け前成鳩尾の穴

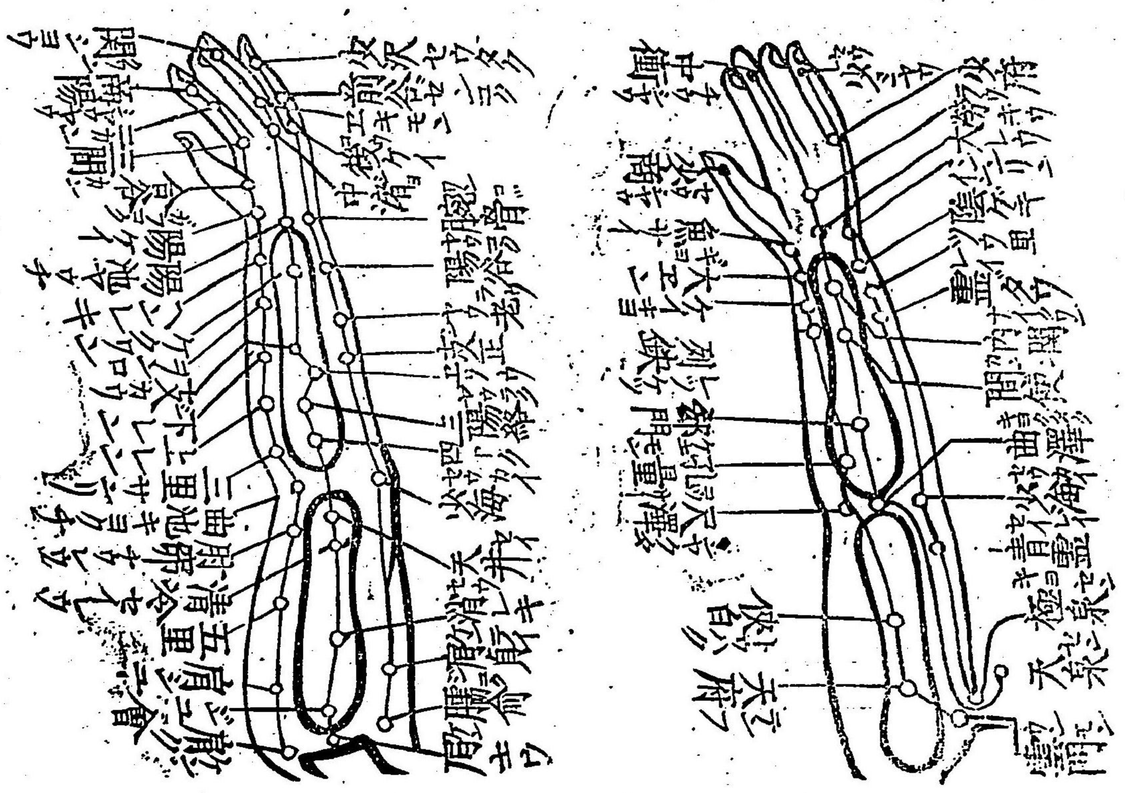
より當直より後に廻り其當る處へかりに点を打偖短き元結にて口をふさがせ口の廣さを取是を貳つに折眞中の折目を前のかり点に當其兩端卽四花の横の二穴なり亦元結を立に當其上下の端か立の二穴なり合て四花の四穴空なる横の二穴より七壯ならは立の二穴は二三壯にて止る横十三四壯もすゑるならは立ば四五壯にて止なり

腰眼の二穴の傳　偖患者を立せ後より見れは腰の當り十七八推の兩傍に兩眼の如きくぼみ有是腰眼二穴の穴あり其穴少〻墨を付て患者伏臥さ〻め其点の處を指先にて穴お考ゑ取べし

風市二穴の傳　同患者を立せ両手を両股に付させ其中指の先の當る處卽風市二穴あり其中指の當る處へ墨を付をきて患者横に臥さ〻め其点の處を指先にてさぐり穴を取横は大筋小筋兩筋の間なり







●鍼灸之部

●中風一切根治する法

張潔か曰く中風は外より來る風邪に非す乃ち本氣自ら病なりと云々五臓に系る五種有れとも茲に畧す手足叶はす身節ふびれすくむは六腑の中風也●耳口鼻滯り舌強て聲出難ひは臓の中風左半身遂はさるは血虚右半身遂はさるは氣虚●卒中風は卒かに倒れ眼を開き口を閉て手足不仁〳〵涎れ出せとも喉鳴らさるは生く●口開ひ手廣り眼お合せ遺尿〳〵沫を吐き空を目づかひ喉鳴り頭面青く汗出て珠の如くいびき高く鼻口より湯氣多く見るは死す●鍼●天府二穴(肩より肘の間力袋の少〳〵眞中外えよせめ)●少商二穴(手の大指内つら爪のはゝ際一分余て点す)●申脈二穴(足の外踝の下五分陷かなる中)●人中(鼻の下口びるの赤肉と白肉と間眞中溝通て)此の四穴は各鍼二分より三分迄余は其時の用捨によるべ〳〵●人事を省ざるは●百會一穴(頭の中央鼻筋の通て前の髪際より五寸上兩耳の上角を目當に取る)●中衝二穴(手の中指の内の傍ら爪のはゝ際一分)●大敦二穴(足の大指の外ゝら爪のはゝ際一分)此三處は針二分より二分半余は時の用捨有るべ〳〵●灸●百會一穴(穴所は前に出す)●風池二穴(腦穴の後ろ髪くばかなる兩傍際の眞中推せは耳に苦る處)此は七壯より五十壯百壯まて●大推

一穴各七壯より二七壯或は其人の年數(脊の大骨の上小骨を二つ三つ除て大推下二推ゝ間)●肩井二穴七壯二七壯(肩の上に三指置て中指の當る處)●曲池二穴各七壯より二七三七壯まて(手の肘を屈て內の紋筋の端手胸に付て取)●三里二穴各七壯より五十壯百壯五百壯是灸穴の最長たり(足の膝目より三寸下は犯骨と筋ゝの間)●不仁には●風市二穴各七壯三七壯(足のもゝの外つゝ直に立兩手を足につくるは中指の當る處をぼかなる溝の中)●肘窮二穴各三五壯七壯(肘を屈むれは肘の折目の頭に高く起る骨あり其外角大筋の後え曲池の少〻後ろに点す)●環跳二穴各七壯より五十壯まて(股の上腰骨の合病人横ゝ臥さしめ下の足を伸上の足を屈股狀腹に付れは腰と股と骨の合をめ筋骨解めに点)●三陰交二穴各三壯又は五壯七壯(足の內踝より上三寸はき骨內つら筋と骨との間たゝ点す)

●諸氣一切を治とる法

夫れ百病は氣より生ず●喜て心を傷る●怒て肝●憂て肺●思ふて脾●哀んて心胞●恐れて腎●驚ひて膽を傷る●●膏肓二穴各七壯より二七壯五十壯百壯二三百壯まて(脊骨は四推ゝ下五推の間介がら骨の少〻內中央より兩傍各三寸半)●肺兪二穴各七壯より二七三七七七百壯まて(脊骨三推の下兩傍各一寸五分)●神道一穴各三壯五

壯(脊中骨五推の下六推の合)●膈兪二穴各七壯二七壯(脊の七推の下兩傍去ると各一寸五分●肝兪二穴各七壯より三七壯五十壯まて(脊の九推の下兩傍へ相去ると各一寸半)●三里二穴各七壯より五十壯百壯二三百壯穴法前に見にたり●承滿二穴各三五壯或は七壯(腹不容の下臍より五寸上相去ると一寸中央上脘の兩傍各二寸)●梁門二穴各三壯五壯(承滿の下一寸中行去ると各二寸)但〜此の病症穴法は鍼灸共穴法同用捨時に寄るべ〜

●瘧疾を治する法

瘧疾は外風寒署濕に感じ內飲食勞倦に傷られ饑飽〜色欲の過度〜脾胃和せざるより致す處なり●鍼合谷二穴(手の大指と人指との間叉骨の合ゑの少〜前をせは肘よりたえる處)●曲池二穴(穴法前に出す見るべ〜)●公孫二穴(足の大指の本節の後へ一寸足の甲の左右合圖を見るべ〜)〇灸●大推一穴(穴法前に出すおく)●譩譆二穴(脊膏盲の下六推と七推の間中行より各三寸半)●肝兪二穴(穴法前に出す)●脾兪二穴(脊の中行の十一推の下中行より兩傍へ去ると各一寸半)●曲池二穴(穴法前に出す)●中脘二穴(腹の中二寸臍行鳩尾下より四寸上)此の六處の灸を各三五壯或は七壯多紀時は二七壯

●痢病治する法

夫れ痢は濕熱食積三ツの物下ずと青黃赤白黑五色なり

濕熱血分を傷れは赤く氣分を傷れは白く氣血ともに傷れは兼る黄かるは食積黑きは濕熱なり○鍼●脾兪二穴針入ると三分より四分(穴法前より出す)●腎兪二穴針入ると前に同じ(脊の中行十四推下兩傍へ相去ること各一寸半)●關元一穴入ると五分(腹の中行臍の神闕より三寸下)●長强一穴入ると三分(脊骨の終り廿二推はつまを俗に龜の尾と云ふ)○灸●大腸兪二穴二七壯或は三七壯(脊骨十六推の下中行より相去ること各一寸半)●小腸兪二穴火數前に同じ(脊十八推の下兩傍各一寸半)●中脘一穴(穴法前に出す)此外前の鍼の穴と同じ用捨時宜によるべし

●肺病又嗽咳を治する法

此症唯一端にあらず氣體虛弱し或は七情を傷り五勞にて心腎勞傷し臟腑を損ひ又は勞蟲ありて骨ずいの間に喰込相傳へて親族を滅し治し難き症なり○鍼●承滿梁門關元のあるり度々針し○灸●膏肓二穴(穴法前より出す)●章門二穴(腹の横脇あばらの下はづれ此の左の足を屈め脇腹あばら骨穴を取病人を横に臥さしめ右を下にして右の足を伸べの下腰骨の上三寸あばらのはなれる点す)但し此穴は百壯より五百壯まで●氣海一穴三五壯より七壯(腹の中行臍神闕より一寸半下)●三里二穴各五十壯百壯二百三百五百壯(穴法足の三里前に出す)●患門二穴各二七壯三七壯(脊骨五推の下六推の上中行より相去

ると各二寸二分半）●肺兪二穴各二壯より五十壯至る（脊三推下兩傍各一寸半）●身柱一穴（骨三推の下中行）●命門一穴各三五壯（脊十四推の下中行一穴）●腎兪二穴各二七三七壯（脊十四推の下命門兩傍中行各一寸半）●四花穴各横の兩傍の二ッは三七壯立の上下二ッは三五壯（脊中行七推の下八推よ近き兩傍各去ると其人の口をふさぎ口の廣さの寸取二ッ折目を脊中當兩傍の端に点す）（立の二穴は此前口の寸拡立よあて丶上下取るなり

●中寒●丹溪の曰中寒は卒に感受而其病發〳〵て暴おり此れ胃氣の大虛なり若〳〵急に治せざれは危し延賢か曰中寒は寒邪直に三陰の經に中るなり俗よ云ふ水落にて痛む有り臍腹痛むあり又小腹及陰に引き痛ませおり寒邪腎を傷り急に一身を痛め引ッり弦直り口つぐみ音を失するは此中寒なり○鍼●氣海一穴深さ一寸より五分六分（腹の中行臍より一寸五分下）●關元一穴（腹の三寸中行臍より下深さ同斷）●巨闕一穴深さ五分七分（腹の中行鳩尾より一寸下）○灸●神闕一穴三壯五壯より五十壯はで（腹の中行臍の眞中鹽か味噌か置てす〳〵る也）●氣海一穴●關元一穴二所とも七壯より三七壯（二所とも穴法前に出す

●傷寒を治する法

回春に云く寒は天地殺厲の氣なり秋は霧露冬の霜雪よ

り受る皆寒邪なり春夏不正の氣を感ずる寸は瘟疫となる秋冬不正の氣を感ずる寸は寒疫となる春夏に受るは初秋より冬の初迄發る秋冬に受るは春末より夏に到て發す其經絡傳變表裏ともに症を受ると此れ傷寒と云ふ俗に流行病と云ふ

○鍼 ●期門●腎兪●關元●中極●合谷●然谷●三里

○灸 ●期門●中脘●巨闕●關元●神闕●氣衝●三里

右傷寒鍼灸とも穴法前に後に出す

●泄瀉を治する法

●脾胃虛弱飢寒飲食過多により或は風寒暑濕の爲に傷らるゝ處なり腹痛〳〵水瀉り腹鳴り或は清血を出し食瀉は痛むと甚〳〵くして下て後痛みかゝ〳〵虛瀉飲食胃に入て化せずして瀉すなり○鍼●關元一穴深さ四分五分●腹溜二穴鍼三分(足の踝の內踝の上二寸後通り)●長强一穴針入ること深さ三分(穴法前に出す俗に龜の尾)○灸●氣舍二穴●各三壯五壯(天突下左右俗に云ふ骨佛の四寸下各八合)●中脘一穴五壯七壯(腹は中行臍より四寸上鳩尾の三寸下)●大腸兪二穴七壯二七壯(脊の十六推の兩傍各一寸半)●小腸兪二穴七壯より三七壯(脊の中行十八推の兩傍各一寸半)

●鬱症を治する法

夫れ人の氣血通和せずして百病生ず諸病は多く鬱より

生すうたすれは結聚〳〵て發越せず是を升すべきに升らず降すべきに降らす變化すべきに變化せず轉化常に失〳〵て六うつを生ず是氣血濕食痰熱を結ぶ●風市二穴七壯ちまた三七壯(足の股の外つら直に立て兩手を足に付て下げくたせは中指のさき當る處に点す)●膏肓二穴●四花●愚門六穴●肝兪二穴●脾兪二穴●肺兪二穴此の六所とも前の穴法に出す

●霍亂を治する法

霍亂は蓋〳〵内積み外傷る依て陽升らず陰降らず心腹卒痛〳〵嘔吐泄瀉す眩暈こぶらがゑり增寒發熱す○鍼●陰陵泉二穴入ること五分(膝の下内つら折屈輔骨下くぼかなる中ゑ點す)●委中二穴針入ること五分より八分(膝の折目横紋の中足を屈めて是を取る)●承山二穴入ること七分(足のこぶら肉高く起る處の下ひつかゞみの六寸下)●幽門二穴入ること五分(腹鳩尾ちり一寸下臣けたの兩傍各五分但〳〵七分半)

●痰飲を治する法

痰熱は濕ゑぞくす津液の化する處也痰の患たること喘をあ〳〵咳をな〳〵嘔をなし〳〵利をなす心下痞隔をなす寒熱痛腫〳〵眩暈をなすあり或ハ背胸一片氷の如く冷ゑ四股不仁〳〵是皆痰飲のなす處なり●鍼灸とも同穴●肺兪二穴(脊の三推の下兩傍各一寸五分)●膈兪二穴(脊七推の

下八推の上各一寸五分)●風門二穴(脊骨二推の下両傍各一寸五分)●肝兪二穴(脊九推の下各一寸五分)●幽門二穴(腹の鳩尾より三寸下巨闕の一寸下両傍各五分づゝ)●不容二穴(幽門の両傍各一寸五分)●承滿二穴(承滿下一寸上脘両傍各二寸)●通谷二穴(ゆふもん下一寸上脘の両傍各五分)此八處は鍼灸とも穴法同〳〵針の深さ入るゝと三分より五分迄●灸七壯より三壯余は時宜によるべし

●喘息を治する法

喘息は肺の虛寒有肺の實熱有肺より棄〳〵て氣滯り肺脹り胃虛陰虛氣虛より發る○鍼中脘一穴(腹の臍より四寸上鳩尾の三寸下)●期門二穴不容の傍一寸五分乳より一寸半下●章門二穴(穴法前に見えたり)●灸肺兪二穴(穴法前に出る)●風門二穴(穴法前に出る)●中府二穴(雲門の下一寸各六寸〳〵やくりにも吉)●雲門二穴(胸左右結喉俗に骨佛と云五寸下左右各六寸づゝ開く乳の上)●天府二穴(肘肩より三寸尺澤を目當に取下俗に力袋と云ふ筋骨の間に点ず)

●飲食の停滯を治する法

飲食停滯すれば脾胃傷れて腹痛み吐瀉おなす鍼●梁門二穴(承滿の下一寸針入るゝと深さ三分)●天樞二穴(腹臍の兩傍各二寸針入るゝと深さ二三分)●通谷二穴(穴法前に出

る)●中脘一穴(穴法前に出る針入ること深さ八分ところ一寸)○灸●脾兪二穴(穴法前に出る)●胃兪二穴(脊十二推の下兩傍各々一寸五分)●三里二穴(足穴法前に出す)

●膈噎を治する法

翻胃は憂思氣の勞れより生ず飲喰下らず喉の奥に何やら有樣ようして痰鬱に依て氣鬱す●翻胃を朝喰する夜夕に吐し夕に喰したるを震に吐す●鬲兪二穴(穴法前に出る)●胃兪二穴(穴法前に出る)●膈膏二穴(脊十六推兩傍各下三寸五分)●胃倉二穴(脊十二推の下兩傍各三寸五分)●天突一穴(喉の下結喉より四寸下胸骨のはづれ)●水分一穴(腹の中央臍の上一寸)但し禁鍼●氣海一穴(臍の下一寸

五分)

●瘵　瘵(肺病門に出す此處欠く)

●吐血并に鼽血を治する法

吐血并に鼽血は陽盛にして陰虛するが故に血下に行らす炎上して口鼻より出るなり●肝兪●脾兪●譫語(此の三處は穴法前に出す)●風府一穴(項の後え髮際より入ると五分)●天柱二穴(項の髮際兩傍大筋の外康陷かなる中)●上脘一穴(穴法前に出る)●丹田一穴(腹の臍の下三寸石門とも云ふ)

●虛損を治する法

虛損は内のよはりを云ふ凡て元氣素より弱く起居宜し

きを失ひ心を用ると大過よ依て眞氣を損〳〵體やせ耳鳴り眼かすみ齒動ぎ腰膝力なく小便短少遺精寐汗眩暈時々瀉をあらはす○灸●肺兪●肝兪●脾兪●腎兪●膏肓三里(穴法前後に出す)折々○鍼●梁門●中脘(穴法前に出る)度々すべし

●下血を治する法

下血は風寒濕熱臟腑に入て腸胃をゐぶり血を大腸よ引て下血す○灸●大腸兪二穴(脊十六推の下兩傍各一寸五分)●腎兪二穴(穴法前よ出る)氣海一穴(腹の臍より一寸五分下)●關元一穴(腹臍より四寸下)●陽關一穴(脊十六の下十七推の間点す)●三陰交二穴(足の內踝の三寸上俗に打貫と云ふ)

●健忘を治する法

健忘は俗に物忘れ物驚き物憂を云ふ此心脾の虛損より發す痰心上ゑて事悉忘るなり○灸●肺兪二穴●膈兪二穴●肝兪二穴●脾兪二穴●腎兪二穴●右五處とも穴法前に出る

○鍼●神門二穴(手小指の後ゑ腕首の横紋の中)●巨闕穴(腹の下部鳩尾の一寸臍より六寸上)●上脘一穴(巨闕の下一寸臍より五寸上)●三里二穴(穴法前に出る)

●眩暈を治する法

目まい立ぐらみ逆上足ひよろつく此れ肝に屬す風邪上

り氣虛失血陰虛火動より起る○鍼●上星一穴(頭額鼻筋髮のはゑ際より上一寸)●風池二穴(頂の後髮際兩傍髮はゑ陷かなる中下りの中)●天柱二穴(頂の髮際兩つら風池の外康少〜下)●梁門二穴(穴法前に出る)●關元一穴(穴法前に出る)○灸●百會一穴(頭の中央額の髮際より五寸上兩耳の上角見當に取)●風門二穴(穴法前に出る)●前頂一穴(ひたい髮際入ると三寸半俗にれどりと云ふ)●厥陰二穴(脊四推下兩傍各一寸半)

●癲癇を治する法

癲癇は元母の胎内にて驚毒を受く心臟に屬す痰涎心竅にまとい基く神舍を守らず而發す○針●大推一穴(脊ち第一ち推の上小推との間)●水溝一穴(面部鼻柱の下鼻の穴のあぜの際に点と)●風府一穴(穴法前に出る)●臨泣二穴頭部前の髮際入ると五分兩眼黑玉通り神庭の傍各二寸余●梁門二穴(穴法前に出る)●神門二穴(穴法前に出る)●崑崙二穴(足の外踝の陷かなる中下少〜後跟骨の上)○灸●上星一穴(頭の前髮際より一寸上神庭の五分後る)●百會一穴(穴法前に出る)●前頂一穴(穴法前に出る)●風門二穴(穴法前に出す)●顖會一穴(頭上星の後一寸髮際二寸)●三里二穴(穴法前に出る)●湧泉二穴足掌ら俗に土ふまず中央少〜上)

●狂亂を治する法

狂亂はくるい、亂て定らす痰火實盛心血不足心肝を傷れて此症をおす○針●尺澤二穴(手肘の中俗に折かゞみ屈伸する横紋は中み青筋を除けて)●間使二穴(掌の後面腕首を去ること三寸兩筋の間)●天井二穴(肘くりのとがり后へ一寸兩筋の間ひじのたかいめ)○灸●百會一穴(穴法前より出る)●湧泉二穴(穴法前に出る)●承山二穴(足のこぶら肉高く起る處踝より七寸上陷かなる中)●風池二穴(腦空の髮際の後面耳の下つら項のみゝ兩傍をせは耳面おたへる處)●曲池二穴(手肘屈めは折目の紋の頭筋骨の間をせはこたへる處)●神門二穴(穴法前に出る●上脘一穴(穴法前に出る)

●癥聚を治せる法

癥聚は俗に腹のかゝまり肝の積を肥氣と云脇左の脇に有面青く兩脇いたみ小腹に引心積を伏梁と云胸の中に横たへ腹熱く面赤く吐血す脾積を痞氣と云臍の眞中通りに有面の色黃よくて腹ふくれ足はれうき泄瀉嘔吐肺積を息賁と云右の脇に有面白く背痛み膚冷皮の中虫のはふか如き時々痛む腎積を奔豚と云積に腹いたむ有痛すくて塊り有て不食す腰痛腹痛胸痛あり○針猥に痛處へ刺せは布而痛拔增積有處よりをしやはらげて後一二寸わきに刺べしむざと痛處へ刺へからず只積によかまはずわきを和らけ氣を快くする時は自ら治す○鍼灸と

も大躰穴法同〳〵時宜に依て用捨有べし●肺兪二穴●膈兪二穴●脾兪二穴●三焦兪二穴(脊十三推の兩傍各下一寸五分)●章門二穴(あばら骨十一枚目はづれ横ゟ臥させ下の足をのべ上の足をかゞめもゝを腹へ付て之を取る)●中脘一穴●氣海一穴●關元一穴(穴法前に出す)●期門二穴(不容傍各三寸一寸半腹の中行兩傍ゑ去ると兩乳の下一寸五分)●陰谷二穴(足の部ひざの折屈ゑ内廉折目の横紋はつれ)●三里二穴●幽門二穴(俗ゟ水落の下鳩尾の下一寸腹の中行去ると兩傍各五分)

●黄疸を治する法

黄疸ふくびゑうは脾胃水穀滯り濕熱相蒸す故に黄疸を發す氣調はず胸痞氣鬱〳〵てゑむなり○灸●天樞二穴(腹部臍の兩傍中行より相去ると各三寸半)●水分一穴(臍の上一寸中行)●氣海一穴(臍下一寸半中行一穴)●膈兪二穴●肝兪二穴●膽兪二穴脊(十推下中行より兩傍ゑ去ると各一寸半)●脾兪二穴●胃兪二穴(穴法前ゟ出す)○針●承滿二穴●梁門二穴(度々針〳〵て肩脊を度々三陵針にて氣ゑくべ〳〵

●咳嗽を治する法

咳嗽は肺氣傷ゑて冷からず嗽は痰有て聲なし〳〵脾に濕熱有て痰を動かし〳〵胃に風寒濕熱有て陰虚火動に依て咳嗽を發す○灸●肺兪二穴●肩井二穴(肩の上ゑ手の三指を

のせ肩の中央中指の當る處)●肝兪二穴●胃兪二穴(脊の十二推の下兩傍各一寸半)●兪府二穴(胸の部巨乳の上四寸骨肩の前骨の下少〜内處入中行去ると各二寸●雲門二穴肩骨の前巨骨下兪府外肘の付際少〜胸の方へ寄)●行間二穴(足の大指と次指ゑ間の亦の前少〜大指の方ゑよせ目に)●斯門二穴(穴法前ゑ出る)●廉泉一穴(をとがいの下俗に骨佛の上推せは舌の根にてたへる處)●針は●不容二穴●梁門二穴(此二處とも穴法前に出す)度々針すべし

●頭痛を治する法

頭痛●逆上●膈病●膈痛は氣血の不快より發る左痛むは氣虛右は血虛眞中痛は食滯なり夜る痛み甚〜く眉間いたむは痰火なり眞の頭痛膈頻きの底にと拔り痛甚〜きは重〜治難〜手足冷ゑ臂膝よゑ上迄ひゑ上るは死す難治ゆ症なり○鍼灸とも穴法替らず時宜に依用捨有べ〜●百會一穴●風府一穴●風池二穴●合谷二穴(手の大指と次骨の合ゆゑ指との間打合少〜前)●曲池二穴(穴法前に出る)●攢竹二穴(面部兩肩の頭少〜肩の中へ入れゑよ点す)●前頂一穴●後頂一穴針す〜但〜前頂百會の前一寸後頂は百會の後ろ一寸なり

●疝氣疝癪れ治する法

疝氣●疝癪は凡て疝は七疝と云七種あり大むね肝腎二

臟不通よりて生ず濕熱痰癥流下して氣血不通す○灸●肝俞二穴●章門二穴●氣海一穴●關元一穴●三里二穴●三陰交二穴(穴法前に出る)●氣衝二穴(兩股の足の付根俗にいのもゝと云ふきたくする骨の少上の内)●大敦二穴(足大指外つら爪のはへ際一分をよけ)●亥の目二穴(腰のうゝろ俗にみつくさりと云兩傍くぼかなる中中行より各二寸五分●風市二穴(もゝの外がは立て手をたれ中指の先當る處)○針●天樞二穴●氣海一穴●關元一穴(穴法前に出る)●中極一穴(腹臍より四寸下陰毛をへ際より上)●腹結二穴(中極の兩傍中行より去ること各四寸有て

●脚氣を治する法

脚氣は男は腎虛女は血虛より發る風寒暑濕受て生す○灸●三里●三陰交●風市(穴法前に出る)●陰陵泉二穴●陽陵泉二穴(二處とも足の折かゝみの折目の紋の外は陽肉は陰ひざのかゝみなり)●陷谷二穴(足の大指と次指との間丁ぶゝの少ゝくぼかゝる中)●然谷二穴(足の土ふまずの内より横がは踝より三寸)●内踝二穴●外踝二穴(足の踝の下少ゝ向ふよせめに)○針●公孫二穴(足の大指の本節ゝりへ一寸然谷の少き向ふ)●委中二穴●懸鐘二穴(足外踝通り上三寸)●三陵針にて血を出す●犢鼻二穴(膝の外つら膝血の下足をかゝえ三里すじか

は一寸七八分上)但〜針灸とも可なり

●痛風を治する法

痛風は遍身骨節走マ注いて痛マ氣血虛弱し風寒濕に感じ關節利せず〜て發る○灸●肩髃二穴(肩先とがり肩骨と肘骨とつがいめかたのはづれ)●厥陰兪二穴(脊の四推の下五推の間兩傍各一寸半)●膏肓二穴(四推の下兩傍各三寸半)●承漿一穴(下唇赤肉と白肉マ〳〵かい赤肉の少き下)●百會一穴(穴法前より出る)●長强一穴(俗より龜の尾)●攢竹の目二穴●風市二穴(ともに穴法前に出る)●氣海一穴●關元一穴(ともよ穴法前に出る)●曲池二穴(穴法前に出る)○針●百會一穴(穴法前に出る)●環跳二穴(股の外の上腰骨と足骨とついがめ横に臥〜て下の足をのべ上の足をかゝめ穴を取)●少海二穴(手のひじ尻上曲池の〜り〜)●委中二穴(足の折かゝみ穴法前に出る)

●腰痛を治する法

腰痛は腰は一身の大關六經のかゝる處なり脾腎二臟虛より發す風寒濕熱痰火を生す○灸●風門二穴●腎兪二穴●膀胱兪二穴(脊十九推の下兩傍各一寸半)●脊八窌八穴(脊の十七推十八十九二十推迄推のあゝ〳〵脊骨の根際此八穴の内見合用捨有べ〜)●志寶二穴(脊十四推下兩傍中行より去ると各三寸半)●崑崙二穴(足外踝後(下跟骨上くぼかなる中)○針も大躰同事●委中より三

陵針にて血を取●腰兪●行間●委中●尺澤●風市●小腸兪●膀胱兪を刺すべし

●眼目を治する法

眼目は肝臓を筍る諸脈は皆眼に属す五臓虚損して眼を煩はす○灸●巨骨二穴●膏肓二穴●曲池二穴●肝兪二穴●脾兪二穴●風門二穴●目窓二穴(頭の髪際入ること一寸五分目黒玉の通りを点す)●三里二穴○鍼●神庭一穴●上星一穴●前頂一穴●百會一穴●絲竹空二穴(肩の後を俗にこめかみの少し内あ)●瞳子二穴(目尻を去ること五分外を●雀目二穴●攢竹二穴●睛明(さん竹は肩頭の少しまゆの中あよりめをせい明は目がしらと鼻すじと間目がしらより一分斗りよけくぼかなる中)金針にて二分ばかり刺すべし

●耳病を治する法

聾耳は腎の臓に屬す手の三陽の間に通す臓を貫ぬ腎虚より生ず亦膽經の風熱に依る故に寒熱往來す○灸●百會一穴●大推一穴●腎兪二穴●膏肓二穴(四處とも穴法前を見あたり)●聽會二穴(耳の珠子の下少し前めにくぼかなる中口開きて之を取)●聽宮二穴(耳の前に丸き肉高ぬ其前推を少き穴あり此處なり)●醫風二穴(耳下珠推は耳の中へ子の後ろてたへる處)●客主人二穴(面部ゆう骨の上かと口を開けは穴あり目尻より二寸斗り下)此穴を針

一分をり過ぐす勿れ灸は七壯より百壯に到る耳病にも大妙穴あり○針●陽谷二穴(手の小指通〜りゑうで首の横紋の中)●前谷二穴(手小指の外ゝら二の節ゑの本ぶ〜前間に点を)●液門二穴(手の小指と藥指との間本節のさか以少し藥指方へをせめてぶしを振て取る)●少海二穴(穴法前に出る)●上關一穴●巨闕一穴●氣海一穴●關元一穴(此の四處とも穴法前に出る)●丹田一穴(服の臍より二寸下)●肩貞二穴(曲脾の下俗ゴかいから骨う〜ろ肘の付根の後ゑの折目紋のか〜ゑ少〜内ゑよせめに)

●齒痛を治する法

●牙齒病●齒は腎臓を主る胃の府に屬す蟲喰齒は腸胃の濕熱なり何も齒の煩ひは腸胃ゴ濕熱風邪有●鍼灸とも穴法同じ大体時宜に依て用捨有べ〜大推一穴●肺兪二穴●膏肓二穴●譫譆二穴●胃兪二穴●脾兪二穴●厥陰兪二穴●膽兪二穴●腎兪二穴●膀胱兪二穴●氣海一穴●上脘一穴●關元一穴(ともに穴法前に出る)●曲池二穴●少海二穴と●三里二穴●合谷二穴●商陽二穴●三間二穴(手の人指の本節の間内つら中節との間少本ゑ〜の方ゑよせゑに)●二間二穴(手の人指の中節の句ふ三間ゟ前の末節との間少〜後ゑによせめに)●腕首より五寸上兩筋の間左右二穴●浮白二穴(耳の後ろ一寸耳より上一寸髮際入るゑと一寸推は耳ゑ荅る處)此の穴は尤

耳病よも吉●承漿一穴(穴法前に出る)●天容二穴(耳の下の後るをとがい骨の少下おせば頭中るてあるる處●天窓二穴(天容の下す〜かいよ一寸下筋と筋との間)

●鼻疾治する法

鼻疾は肺臓に屬す肺に風熱あり七情丙に鬱〜六陰外を傷り飲食過度勞役〜て鼻ふさがり熱邪有て清道を塞く●鍼灸共も穴法大体同〜見合て時宜に依り用捨有るべ〜●百會一穴●上星一穴●肺兪二穴●風門二穴●風府一穴●風池二穴●臨泣二穴(額上の髮際入ること五分神庭の兩傍黑眼通り)●曲差二穴(髮際五分上神庭の兩傍各一寸半)●迎香二穴(面部鼻の穴の兩傍各五分にあて但〜禁灸●前谷二穴(手の小指の外ゝら本ぶ〜前中ぶ〜との間少〜本ぶ〜方よせめ)

●胸痛●心痛●脇痛を治する法

胸痛●心痛●脇痛は都而心包絡よ屬す亦心肝二臓の不調より生或は七情の傷ゝて發る寒邪臓を傷り痛炙甚〜く手足青く〜て冷臂膝を過るゝ半日に〜て死す脇痛は左にならず●大鄰二穴(足の内踝の後に五分跟骨の上動脉手よこたへる處針三分灸三壯すへ〜)此は秘傳の法なり●針●神門二穴(手の小指外つら後へ首の横紋のゝづれ)●建里二穴(腹の中脘の下一寸臍より三寸上●中脘一穴(穴法前に出る●大都二穴(足の大指の本ぶ〜の前赤白

肉さかいめ)●日月二穴(腹の斯門の下五分あばらのはづれ)●章門二穴(穴法前に出る)●巨闕二穴(穴法前に出る)●行間二穴(足の大指と次指との間少〜大指の方へよせたに)●尺澤二穴(手の折かゞみ中横紋の中少〜外へ但〜青すじよけゐ)●委中(より血を出〜少〜血を取る)○灸●膈兪二穴●膈兪二穴●中脘一穴●下脘一穴(腹の臍より二寸上)●肝兪二穴●風市二穴

●脹滿を治する法

脹滿●水種脹は脾腎の虚より起る種は元腎にあり末は肺よりありともに水の積りて腫をなす腫積りて滿と云ふ面眼手足はれるを水腫と云ふ腹斗り腫れ大にして鼓ち

如く遍身ざゐを脹滿と云ふ皆ともに肺脾腎より屬す○灸●膈兪二穴●肝兪二穴●膽兪二穴●肺兪二穴●脾兪二穴●章門二穴●水分一穴●氣海一穴(此八所とも穴法前より出る)●通谷二穴(腹ち幽門の下一寸上脘の兩傍各五分ひらく)●石關二穴(腹の幽門の下三建里傍兩傍寸通谷の下二寸中行去ること各五歩)●天樞二穴腹臍の兩傍各二寸●承滿二穴腹上脘の傍中行を去ること各一寸半●三里二穴○針●上脘一穴●關元一穴●石門一穴腹氣海下五分關元上一寸中行一穴●章門二穴●斯門二穴●胃倉二穴(脊十二推の下兩候各三寸半)●水溝一穴(面部一名人中鼻柱の下溝の上の根際の一穴)●合谷二穴●復溜二穴(足内

踝の後へ通り踝の上二寸)●承滿(腹上脘傍兩傍中行を去ると各一寸半入ると深さ二三分)

●痲病狀治する法

痲病は腎臟膀胱に屬し各五種あり氣痲血痲熱痲勞痲膏痲の五種尤濕熱膀胱に爵結して所謂痲をなす○灸●膏肓二穴●腎兪二穴●小腸兪二穴(脊十八推の下兩傍各一寸半)●膀胱兪二穴(脊十九推下各一寸半)●志室二穴脊十四推の下兩傍各三寸半)●腰兪一穴(脊骨廿一推の下廿二推の間龜ゟ尾の上)●氣海一穴●陰交一穴(腹臍の下一寸中行)●關元一穴●會陰一穴前陰と後との間少前陰の方へよせたに俗にありのとはたり)●三里二穴○針●關元一穴●曲骨一穴(腹臍より五寸下陰毛はへきわ)●中脘內二穴(三十推の下各一寸半)●意舍二穴(十一推の下兩傍各三寸半針灸とも)●曲池二穴●三陰交二穴(足の內踝の上三寸俗に打貫と云ふ處)●斯門二穴(腹不容傍一寸半乳より一寸半下)●丹田一穴(腹臍より二寸下中行一穴)●復溜二穴(穴法前に出る)●懸鐘二穴(足の外踝の上三寸踝の通り三寸上)

●遺溺を治する法

遺溺は小腸膀胱の陽氣衰へ脫する故なり下焦ゟ血をゑまは腎虛勞〳〵膀胱利せず下焦虛〳〵內損する故に發る

○灸●腎兪二穴●小腸兪二穴●膀胱兪二穴●氣海一穴

●關元一穴●中極一穴(腹臍より四寸下中行)●曲骨一穴
腹中極の下一寸中行)●横骨二穴(腹の下を曲骨の左右各
五分)●三里二穴

●遺精を治する法

遺精をうぞうを見る精もれる心腎内虚に依て陰精守ら
ず相火動をる故なり○灸●肺兪●脾兪●氣海●横骨●
關元●氣海●丹田●中極●命門一穴(脊十四推下中行一
穴)○針●關元●極泉二穴(肘の内つら付際手拭たれ下く
れは臂と肩との折る立紋の頭少〳〵胸の方よせめに)●然
谷二穴(足の内踝の前大指の本筋の後え傍に小高処骨あ
り其骨の下)●大赫二穴(腹の中極の傍中行より各五分)●

三陰交(穴法前に出る)

●秘結を治する法

秘結大べん通ぜず風痰大腸に結〳〵て通せず寒邪にて腹
冷或は氣滯りてなす熱氣胸に塞り亦内虚をて發るあり
○灸●肝兪●膽兪●腎兪●大腸兪●關元●此の五處と
も穴法前に出〳〵をく○針●天樞二穴(腹臍の兩傍各二寸
あり)●丹田一穴●陰交一穴(二處ともに穴法前に出る)●
滑肉門二穴腹の臍の上一寸水分の兩傍各一寸半)●承山
二穴(足のこぶら肉高く起て止る處の肉のさかいを陷か
なる中)●飛陽二穴(足の外踝の上七寸承山と双ふ少〳〵外
をふ〳〵の少後〳〵ろ)

●五痔を治する法

痔痛此れ肺腎二臓に屬す大腸に濕熱邪氣をまとう肛門のふちに瘡を生〳〵て愈安きを痔と云ふ愈難きを漏と云如所謂瘡より膿汁を出〳〵終に穴をうがつ俗に穴痔と云ふ牡痔牝痔腸痔血痔脉痔の五種あり痔漏の一種合て六痔と云如○灸●百會一穴●肺兪●脾兪●腎兪●大腸兪●膀胱兪●氣海●關元●命門●飛陽●承山●承扶二穴(股のうら俗ゑ尻ほべたのうら横紋有其紋の中央)●長强一穴(俗に龜の尾廿二推のをしはつき●三里●三陰交二穴(穴法前に出る)○針●秩邊二穴(脊廿推の下兩傍各三寸半)●委中二穴(足の折かゝ爻のうら横紋の中)●承山●飛陽●復溜●長强●承扶(ともに穴法前ゑ出る)●商丘二穴(足の内踝の下少〳〵前足を張上をは跗骨の下折目の頭)

●脫肛を治する法

脫肛は肛門翻へり出るなり大腸の虛なり故に肺ゑ屬す肺虛寒すれは脫出す亦白腎は穴を二陰に開く故に腎虛する者多く此症あり○灸●百會一穴●命門一穴●腎兪三穴●膀胱兪二穴●大腸兪二穴●膀胱二穴(十九推の下兩傍中行去ると各三寸半)●長强一穴(俗に龜の尾)

●痃癖を治する法

痃癖か多のたりつめる都而痰血ゑ依或は風寒濕に依る甚しきは大事ゑ至○針●肩井●肩中●巨骨●風門●大

推●肺兪●膏肓(此當りを能ひねり能もみ和らげ三稜針にて淺く皮肉の間をゐぶり血を能々〳〵ぢき取り後此あたりは兪穴五七壯灸すべし〳〵)○手足及び指のいたみに氣血の衰ゑ亦は風濕の邪熱に依て發るなり●是も此あたりを克々もみかで此あゐりの兪穴に三陵針又は細針にても極淺く打其上能々揉按の治療〳〵其後兪穴より五七壯灸すべし〳〵

●瘰癧を治する法

瘰癧は大む絲口のはたをとがい此あたり𤔲發るものなり●承漿に灸五壯●人中●天突●氣舍●此等穴に灸三五壯すべし〳〵又少海●章門●關元●臨泣●尺澤●委中に

針すべし但〳〵天突一穴(結喉の下四寸俗に骨佛より四寸下)氣舍二穴(天突の左中行去ると右偏ゑ各八分)●三里二穴に針灸〳〵て可なり

●子宮を治する法

子宮には○灸●水道二穴(腹の中極の左右中行去ると各二寸)●氣衝二穴(兩股の付根動脈有處俗にゐのもゝと云ふぐれ〳〵する丸き骨の上一寸)●中膂內二穴(脊二十推の下各一寸五分)●命門一穴●陽關一穴(脊十六推の下中行一穴)●腰兪一穴(脊二十一推の下中行一穴)●膀胱兪二穴(穴法前より出る)●陰廉二穴(兩股の付根氣衝を下ると二寸但〳〵おゝめより下る內もゝの付根際)

●白赤帶下を治する法

白赤帶下は○灸●白環兪二穴二十一推の下各一寸半但、〜禁灸の論有)●帶脉二穴(脇腹章門下一寸八分腰骨の少〜上点す)●五樞二穴(帶脉下なゝめに前三寸下氣衝ゟ上)●氣海一穴●關元一穴●曲骨一穴●長强一穴(穴法前に出たり)●次膠二穴(脊十八推下中行脊骨根際に点す)●陰廉二穴(穴法前ゟ出る)●月水不調○灸●氣海一穴●復溜二穴(脇ばら五樞の少き前關元の通ゟ横腹)●胞肓二穴(十九推の下兩傍各三寸半)●三陰交二穴●不容二穴(腹の幽門ゟ傍各一寸半)●風府一穴●大推一穴●大杼二穴(大推の下中行より二寸半兩傍)

●産後乳汁不足を治する法

乳汁は膻中に灸三壯すべ〜(膻中は即ち兩乳間)●少澤に針灸一二壯すべ〜(即少澤は手の小指外つら爪のはゟ際去ると一分)●前谷に針一分灸三五壯すべ〜(即前谷は手の小指の外ゟ本節の前に点す)

●乳腫物を治する法

乳癰には臨泣に針灸●三里●下廉●(足の三里より下六寸筋骨の間)●魚際(手の大指内つら元節手首の少〜向)●少澤二穴(手の少指の外つら爪のは〜際一分去る)●委中(穴法前に出る)●臨泣二穴(穴法前ゟ出る)●爽谿二穴(足の小指と次指との間少〜次指の方へよをめ又の後)●百

會一穴へ針一分半灸七壯をべ〜

●血塊を治する法

血塊には●復溜(穴法前に出る)●氣海●三陰交●帶脉二穴(穴法前に出る)●關元●陰廉●針灸見合てをべ〜●血海二穴(足のむざがまらの内かと上一寸半折ゐゝみの上)●三陰交二穴●中極一穴

●小兒科驚風を治する法

驚風には●前頂一穴●攢竹二穴●人中一穴(人中鼻の下上くちひるとの間赤肉の少し〜上)各三壯灸すべ〜針一分斗り●慢驚風には●尺澤に七壯灸●百會●顖會一穴(頭の上星の後へ一寸髮際入と二寸)●合谷●少海●中脘●長强●都て急驚には針慢驚には灸すべ〜

●五癎を治する法

五癎は五臟に屬を所謂心癎肺癎脾癎肝癎腎癎の五種あり○針●三陵針の先にて項筋大推をり脊骨両傍皮肉を切亦合谷尺澤足は三里より上れん●下れん●三陰交足の内踝の前各々此あたり針皮肉を刺切すべ〜亦●灸肝脾二兪の穴此四穴の内左右の片一方づゝ二穴に灸三壯すへ〜亦三推の下四推の間一穴●百會●合谷●承漿●大推水●分氣此等の穴の内三壯灸するを〜

●カタカイを治する法

カタカイは●命門●肝兪●中脘●章門此等の穴

に五七壯灸金針一三分刺べし亦方都而小兒治療には少さゞ石形鷄卵の如き白少〳〵ねづみ色がゝり〳〵石亦紫淺黃かゝり〳〵色石脊な腹ら手足にても一度ゟ四五十扁なで下ろ〳〵毎日一度か二度揉按を療じすれば其小兒蟲の氣除き無病堅固なる事きはゑて妙なり●此治療は屢々ためゑ試ゑあるなり●薫臍の方一年春秋の内に病者をしてふとん折つみ是ゟもゑきかゝり偖腹腸の中ゑ蕎麥の粉と●大鼠のふんを●黃栢粉じゑ香少し入よくねり臍の中うゑ置其上あんゝゆの木のあまはたを置き其上より大さ●四歩斗りの艾を置其人の年數程灸すべ〳〵但〳〵臍の中數有藥又あん樹あまはだゑけこげは新〳〵ゝに仕替灸すべ〳〵此方腎虛及元氣衰弱〳〵陰莖立ず又は色欲にて精をへら〳〵小便毎に少〳〵〳〵みいゑみ淋の氣又腰痛み目かすみ頭とつさりと重く交合の時氣ゝをき陰莖奴張せず此れ腎の減なり捨ゝかは終に大事に及ふなり此等の症に此方妙あり

●流行病を豫防する法

●腰眼二穴●關元二穴●足三里二穴此三處の穴に金針三分より五分まて打其上ゟ藥をゑり艾艸を置灸すへ〳〵但〳〵藥と云ゑは黃栢と燒明ばんと二味等分に合〳〵ゝばにてねゝ付べし又育をう艾に少〳〵ゑり入灸すべ〳〵●此方コレラ及其他流行傳染惡病除るゝ奇々妙々なり

●藥法之部

●中風を治する妙法　人參目方壹匁水にて濃く煎じ用ゆべし若し手足冷へ脉沉むもしくは唐附子少量を加ゑ共に煎じて之を服すべし急性の中風に特効あると妙なり

●又方　蠶砂若干を上酒に浸し一晝夜にして之を出し干し乾かして極細末となし一回に目方二匁五分宛酒にて服用すべし若し虛弱の者には蠶の蛹を細末となし少量を之に加ゑ用ゆべし甚た妙なり

●脚氣を治する妙劑吳茱萸目方二匁唐木瓜目方四匁梹榔子目方八匁生姜五片右四味調合して之を五服に分ち水煎して温服すべし脚氣衝心悶亂手足脉欲絶者に用ひて其効神の如し

●又方　杜松子二匁水八匁右淡く煎じ出し一日に服すべし此方を一週間乃至二週間程服すれは脚氣を治すると妙なり

●同外用の方　片腦目方拾匁をアルコール六匁にて溶解ち毎日二三回宛疼痛及麻脾等の所へ塗抹すべし

●痂氣を治する奇方　薏苡仁適宜東方の壁土と共に能く炒て土を去り水煎して之を度々服すべし痂氣慢性とかりて久しく治せざる症に用ひて妙なり

●又方　小茴香川楝子二味等分に調合し水煎して服用

すべ〜疝氣を治するの主藥なり

●僂麻質斯の神方　サルチルサン曹達目方一匁を水三匁に溶解〜右二日分六回に分服すへ〜甚た妙なり右の方を二週乃至三週日間服用すれは如何なる慢性の病症と雖とも治すると神の如〜

●又方　芝走り（蛇の名）の黒燒を極細末とな〜一回に目方一匁宛一日に三回服せへ〜若〜小兒からは大人の量の二分一若〜くは三分の一を服すへ〜特効を奏すると疑ひなし

●痛風を治する妙藥　牛膝木通羌活防風各等分右四味水煎〜て服すべ〜痛風未た慢性に至らざるとき此の方を

服すれば治すること妙なり

●又方　藤の瘤を細末となし胡麻の油にて之を煉り疼む所へ塗り附けてよ〜脚氣にも効あり

●癩病を治する秘方　太楓子目方百六十匁風冬苦辛桑葉各十匁右四品を酒に浸た〜置くこと二三日に〜て取り出〜能干〜乾かし〜て細末とな〜一日に目方五匁四分を三回に服すへ〜

●肝臓病を治する方　ナスセガル目方十匁細末唐大黄五匁麻俱涅失亞適宜右三品調合丸藥な〜一回に目方五分宛朝夕二回白湯にて服すへ〜肝臓病一切を治する神劑なり

●又方　熱湯に檸檬一個の液汁を半分和〳〵朝夕に一小杯宛服用すへ〳〵肝臓の衰弱を治すると妙なり

●溜飲及胃病を治する方　良姜生姜小茴香肉圭目方各十匁牡蠣目方二十匁炭酸麻倶涅失亞目方三十匁右六味調合極細末とな〳〵一回ゑ目方一匁宛一日に三回宛白湯にて服すへ〳〵餾飲及一切の胃病に用ひて特効あると神の如〳〵

●又方　炭酸麻具涅失亞五匁重炭酸曹達十匁吉益牡蠣十匁右三品調合目方二匁を一日に三回に分服せべ志其効あるゑと用ゐて知る可〳〵

●梅毒を治する妙藥　廣東山皈來一斤を凡ろ一分位の厚さに切六百目位の牝鷄一羽に水三四升入れ充分に能く焚き出〳〵肉を悉皆取て出〳〵其の焚き汁の中へ右の山皈來を入れ充分に能く焚詰め山皈來を日に干〳〵乾かして十二に割其一分へ水一升を入れ七合に煎〳〵出〳〵其所へ更に木通忍冬茯苓大黃各二匁甘草目方五分宛右之煎汁の中へ投〳〵五合に煎〳〵詰め一日に數回に分ち用ゆべ〳〵梅毒其他ひゑ〳〵つ一切ゑ用ひて治せすと言ふてせな〳〵

●又方　沃度加里十二瓦水二瓦之を一日に三回に分ち服すゑ〳〵此方は僂麻質斯症にも甚だ妙なり

●積氣を治する良方　半夏黃連黃芩竹節人參角石甘草

右六味調合土生姜一片入水煎〳〵て用ゆへ〳〵急性の癪氣
狀治すること妙なり若〳〵右の藥を服用するとき嘔氣を
催すこゝあるは土生姜をわさびを湯〳〵よゝ卸〳〵其絞り
汁狀右の藥の内へ投〳〵用ゆへ〳〵

●又方　ダラスケを湯にて能くとき少量宛服すへ〳〵直
ゝ治すること妙なり

●肺病を治る方　蘆根なまのもの甘草右二品水煎〳〵て
一日に三服宛服すへ〳〵

●又方　桑白皮杏仁麻黄黄芩右四味水煎して一日に三
回宛服すべ〳〵

●勞咳を治する妙方　肝油を一回に目方二三匁づゝ水
に和〳〵白糖を以て之を服す可べ〳〵

●又方　雨の魚を薄醬油ゝて焚て常ゝ服〳〵て妙なり

●黄疸を治する方　木防巴茯苓硝石茅根甘草此水煎〳〵
て一日に三服宛服すべ〳〵

●又方　鉄粉百二十匁肉圭細末貳拾匁右二品丸藥とな
〳〵一日に目方三匁狀三回ゝ分服すべ〳〵黄疸及胃病等に
用ひて妙なり

●又方　茵陳甘草二味調合水煎まて一日に三服宛服す
べ〳〵黄疸一切に用ひて妙なり

●胸痛を治する妙方　小麥粉一回に目方壹貳匁宛白湯
にて服〳〵て治するこゝと妙なり

●又方　櫻の皮の甘肌をとり湯煎〳〵て服用すへ〳〵甚だ妙なり

●痰セキノ妙藥　老利兒水一勺水三勺右一日分三回に分服せ可〳〵痰セキを治せること妙なり

●又方　氷砂糖二拾匁干姜六匁半夏一匁右三品細末とな〳〵蜂蜜よて煉り服す可〳〵痰セキに用ひて甚だ妙なり

●又方　石長生杏仁蘇子甘草右四味土生姜一片を入れ煎じて服す可き妙なり

●喘息を治せる妙劑　瓜蔞仁枳殼右二品土生姜一片を加へ煎きて用ゆへ〳〵治せること甚だ妙なり

●又方　蝸牛數疋をとりて黑燒せな〳〵少量宛白湯にて用ひて宜〳〵

●又方　欵冬根桑白皮杏仁甘草右四品を調合〳〵土生姜一片を加へ水煎〳〵て用ひて宜〳〵

●五痔の妙藥　硫黃華目方一匁酒石英同一匁大黃同五分右三品調合細末とな〳〵一日に目方一匁を三回に分服すへ〳〵

●又方　蜆を能く煮出〳〵其汁よて度々洗ふて宜〳〵

●脫肛を治する妙方　白馬の油浸打綿にのべ其患所へ貼用すへ〳〵特効あること妙なり

●又方　木賊適宜黑燒となし〳〵細末にしてロマシ油にて煉り合せ患處に附けて宜〳〵

●淋病を治する妙法　大麥三合を能く炒り甘草二匁を加へ湯煎〳〵て服すべし〳〵

●又方　バルサン油少量を水に和し白砂糖を入れ一日二三回宛服用すべし〳〵治すること妙なり

●又方　夏枯草車前子二味等分水煎〳〵て度々服すべし淋病消渇共に用ひて宜し

●淋小便を治する方　萆薢一味を細末となし〳〵鹽湯にて服用すべし〳〵

●又方　地黄遠志鹿角膠右三味細末となし一日に三回宛白湯にて服すべし〳〵

●妄想を治する妙方　龍腦三匁重炭酸曹達一匁之を三包に分ち毎夜寢に附くとき一包宛用ゆべし

●又方　龍骨牡蠣等分二味調合細末となし〳〵毎夜目方一匁宛白湯にて三日間服すれば必ず之を止むると神なり

●チュリチトシの妙藥　キナエン五匁曹達二十匁を一包となし〳〵こり日の早朝に之を水にて頓服すへし〳〵落ること妙なり

●又方　常山三匁石膏一匁知母一匁甘草五分右四味水三合入れを二合に煎〳〵あげ間日の夜に半分を飲み殘る半分は夜露を取り置き翌日早朝之を飲む可し〳〵こり落ること神の如し〳〵

●眼病を治する妙方　硫酸亞鉛二匁を蒸餾水一匁に溶

解し一日に一二回宛筆頭にて点眼すへし眼病一切に妙なり

●又方　紅花黄栢薄荷黄運枯礬右五味細製となしも其の切に包み湯にて振り出し度々洗ふへし一切の眼病に宜し

●齒痛を治する妙方　烏賊の甲の細末を酢にて能くと兇耳の穴へいれて即時に治すると神の如し但し痛たむ方の耳へ入れるなり

●又方　ラウダニユーム少量を綿にまきし齒の痛む處にて暫時かみ合せ其綿を吐兇出す可し治すると妙なり

●又方　當飯二匁川芎一匁右二品を水七分酒三分入れて能く煎し暫時づゝ口中に含み其后ち飲み下すべし痛みを止めること妙なり

●口中の惡臭を去る妙方　鹽酸加里一匁水六匁右水劑となし暫時口中に含み后ち吐き出すへし口熱を去りて惡臭を除くこと妙なり

●又方　川芎を細末となし食事后に少量宛含みて宜し又白芷も細末を同樣になすも妙なり

●小兒五疳を治する妙藥　赤がいるの腹腸を去り附け燒となし一日に二三疋宛用ひて宜し又粉にして度々用ゆるも妙なり

●又方　夜明砂を粉にして猪の肉の汁にて服用すれは

胎毒を下〻諸の疳を治すること神の如し

●風癲を治する神方　阿魏二匁麝香一分葛粉三匁右三味細末にして極小粒の丸薬となし一回に十粒宛一日に三回白湯にて服すへし此丸薬を一ヶ月間服すれは必ず効有るものなり

●又方　大黄五匁芒硝五匁辰砂二匁右三味丸薬となし目方壹匁五分を三回に分ち一日に服用すへし

●痩身を肥す方劑　武蘭埜一匁鷄卵一個白砂糖壹匁水三匁右調和して一日の間に服用すへし此方を二週間乃至三週間服すれは身体を強壯にして肥満すること妙なり

●又方　肉龍眼を壹回に目方一匁宛一日に三回宛平常服すること前同様の功あること妙なり

●肥る過きたる身を痩る法　山椒の粒を十粒程宛毎日服せば肥る過きたる身体を宜き程に痩せしむること妙なり

●又方　梅干壹個宛毎朝白湯にて服すへし

●インキンタムシを治する妙方　コウ末少量を上酢の中へ投じ一日に一二回宛筆にて其患所へ塗るへし

●又方　米糠の油を塗り其患所へ付けるへし必ず治すること妙なり

●錢田虫を治する法　虎杖根をわさびをろしにてすり

其患所へ度々付けて宜〜

●又方　ヨシムヿ幾(二十倍位の)ものを一日貳回宛其患所へ塗るへ〜又インキンにも宜〜

●ガンガサの妙藥　古き茶袋黑燒山飯來白燒輕粉少量を加へ胡麻ゟ油にて煉り患所へ塗り附けて置けば治すこと甚だ妙なり

●又方　阿鉛華細末を一日に二三回宛其儘患所へ塗るへ〜是又治すること妙なり

●沉黑子を拔く藥　硫酸を筆の先ゟにて其上に少〜塗るへ〜二三日の間に自然に取れること妙なり

●又方　棒ツーピスの先にて二三回其上を燒ゞば二三日ゟ中に取れるゟと妙なり

●疱瘡の寄溜を治する妙方　橘皮五分草蘚五分右二品を水煎〜て度々服すへ〜自然に治すること妙なり

●又方　鷄卵の白身斗を度々其處へ塗るへ〜治すること甚だ妙なり

●ヒゼンを治する妙藥　樟腦三匁硫黃三匁巴豆一匁右三味細末とな〜胡麻の油にて煉り其患所へ塗りて宜〜

●又方　硫黃華十匁硝石十匁大黃五匁右三味丸藥とな〜一回に目方一匁宛朝夕に白湯にて服すへ〜ひぜんの毒を去り自然ゟ治そること疑ひなし

●面瘡及諸瘡を治する方　連翹牛房子甘草右三味水煎

〳〵て一日に三服宛服す可〳〵諸瘡の毒を下〳〵治すると妙なり

●又方　川柳の木に食鹽少量を入れ能く煮出〳〵此汁にて洗ふへ〳〵又諸瘡を治するには米の洗ひ汁を湯となし〳〵度々洗らひ后ち菊の花の黒燒を附け置くへ〳〵左すれば害なく〳〵て治すると妙なり

●聾を治する妙劑　細辛黄蠟各等分丸藥となし〳〵一回に目方五分宛白湯にて一日に三回宛服すへ〳〵自然聾を治すると甚妙なり

●小兒のセキを治する妙方　舶來アラビヤゴム目方三匁氷砂糖目方二匁右二味充分に能く煮詰め一日に用ゆる〳〵セキを治すると甚だ妙あり

●又方　山蟹拔焚出し其汁拔飲む可き小兒大人共に咳拔治すること甚だ速かなり

●小兒を早く歩行さす藥　五加皮木瓜各等分右細末となし少量宛常に服す可〳〵

●頭髮の禿けたるを塗りて生する法　丹礬朱砂各等分硼砂少量右三味細末となし猪の油にて塗るへ〳〵妙あり

●又方　綠礬細末苦楝子の灰等分に和〳〵塗り付けて宜〳〵

●赤毛を黑色する方　蕁麻子五十粒皮を去り胡麻の油にて煎じ蕁麻子のこげたるとき取り出して三日間其儘

よな〳〵れき四日目より此の油を塗る可〳〵甚だ妙なり

●又方　胡麻の油上酢各等分の中へ黑豆五匁を加へドロ〳〵になる迄焚詰めて之を度々塗り付けてよし〳〵

●毛生藥の妙方　ロマシ油一匁芫菁丁幾三十六匹右二味能く混和し一日に二三回宛我思ふ所へ塗り付けて宜し〳〵

●白髮の拔けたる跡へ黑髮を生ずる方　生姜の皮十匁をロマシ油若〳〵は胡麻の油にてもよし〳〵能く焚出し〳〵白髮の拔けあるる跡へ直に篤と摺りこむべし〳〵

●髮の短きを長くする奇方　朝倉山椒を好き酒に浸た〳〵置風のあたらぬ處にて毎日ぬるへし〳〵

●頭髮の縮みを直くする法橙の酢を髮を結ぶ度毎に付ゆる可〳〵數回付ゆれは自然縮み伐直くすること妙なり

●又方　さねかづら伐五分程づゝに切り髮に油に浸た〳〵置き前方同樣に付ゆてよし〳〵

●髮のぬけるを留る妙方　榧の實三個胡桃二個側栢葉十匁右三味能く搗き碎き雪の水に浸ま〳〵置き髮油の代用に遣ふべし〳〵髮のぬけるを留むると妙なり

●白禿瘡を治する妙方　茵陳俗にかわらよもぎと言ふを黑燒とし〳〵で麻の油にて解き塗り付けて宜し〳〵

●又方　乾蕪を黑燒にして前方同樣に塗り付ゆてよし〳〵

●汗の出るを防ぐ妙藥　白芷薄荷防風各一匁龍腦少し〳〵

右四味細末となし小麥粉十匁を加へ絹の袋に入れ發汗せんとする前に身躰へ振り付けて宜し

●又方　黃芪白述各等分甘草少量を加へ水煎じて一日に二三服づゝ服用すべし内を抱へ服力を強くし汗の出るを防くと妙なり

●寐汗を治する妙方　鼈甲一味を能く煎じ詰め度々用ひて宜し又鼈肉を薄醬油にて焚き少しづゝ食してよし

●腋臭を治する妙方　白綠青少量を細末となし生姜の絞り汁と和し常々能く摺りあむべし

●又方　明礬の細末を毎朝塗り付るを宜し

●燒けどの妙方　燒けどしたる時は直ち生漉を塗り付ける可し即坐に治すること妙なり

●又方　鐵漿を付ければ直に疼痛を止め治すると妙なり

●又方　燒けどの處へ直に鹽を澤山に摺り附けるべし疼みを止め其儘に治すると神の如し

●聲を出す妙藥　蚯蚓を水にて能く洗ひ其腹をしごき土けを能く去り白砂糖にてまぶし一日に二三回づゝ其儘にて頓服すべし聲を出すこと妙なり

●又方　甘草膏スボツトツの事なり之をうすくけづり白湯にて度々服す可し特効あること妙なり

●又方　鷄卵の白身を去り黃身斗りに白砂糖を和し一

日二回宛服す可〳〵良聲を出す妙方なり

●眉毛の拔たるを生ずる法　半夏一味能く細末となし能く摺りぬる可〳〵甚だ妙なり

●齒の生へざる時生る方　牡鼠の脊骨を細末となし生ずへき所へ塗て置けば生るなり

●ざるを治鼻を治する方　枇杷の葉山梔子各等分右二味を細末となし服してよし

●又方　ナヒミの葉を酒にて蒸しあぶり乾かして細末となし服するも又妙なり

●アザをとる妙方　土龍(俗にヲヒロヒナと言ふ)を黑燒となし胡麻の油にて溶て局部へ付けてよし

●ひゞあかぎれを治する法　ナレフー油を毎夕能く摺りつけてよし又たりメリンをつけるも妙なり

●又方　生姜の葉の煎じ汁にて度々洗ふてよし

●霜燒けの妙方　桐の葉を能く煎じ度々洗ひ温めてよし

●又方　白牡蠣の細末を加羅の油にて溶て能くすり附けてよし

●ニキビの妙藥　蜜陀僧の細末を乳汁にて溶て毎夕寐る時顏に塗り翌朝洗ひ去るべし斯なすると四五度にて必ず治すべし

●又方　明礬の細末を酒にて溶き塗り附けてよし

●面部のうばかすを治する法　檸檬汁八匁硼砂二分五厘白砂糖五分右三味數日の間瓶ゟ入れ置き能く混和したるを待て度々塗り附けるべし

●白黒のなまつを治する方　肉圭膽礬輕粉硫黄各一匁細末となし葱の白根五六本を束ねて切口ゟ右の粉を付けて其患所の上ゟ塗り付けよし

●又方　丁子雄黄百草霜右三味粉ゟ為て胡麻の油にて解き塗り付けるなり若し脱せずんば柾柳子を丸ながら少し削り其削り口へ右の藥を付けて痛む程するへし

●ろげぬき藥　袖のたね二十粒斗り白湯にて頓服すへし甚だ妙なり

●吐血の妙方　くしがきを粉ゟして白湯にて飲み下すへし吐血を治すると甚た妙なり

●鼻血の妙藥　山梔子黒燒を細末となし白湯にて服用すへし特効かると妙なり

●前人未發新奇發明記臆法秘術

●一黄芪●人參●酸棗仁●龍眼肉●遠志各三匁五分宛●石菖根●唐木香●甘艸各二匁つゝ右八味を細末となし一日に目量一匁五分宛を三回に分ち白湯又は上酒にて常に之れを服すべし

●一黒胡麻四十匁（但し上等の分）●山藥十匁●人參●疾莉子各二匁宛

●右四味を細末となし之れを適宜の器物に移し其中へ雞卵一個を投じ能く混和し蜂蜜を四十匁を加へ能く煉り合せ若しかゝけれは尚ほ少量の蜂蜜を加へ〳〵而して前の散藥と共に一日に三回宛白湯又は酒にて服すへし但し一回に二匁五分とす

●虎列刺病豫防の妙方　藿香木香益智各等分右三味二三度振り出して飲み后又煎じて飲むべし暑氣及び濕氣を拂らひ流行病を豫防すること妙なり

●又方　稀硫酸一匁白砂糖一匁水十二匁右該病流行の際日々二三盃宛服用して宜し

●熱病豫防法中鷄冠雄黄一匁細末となし熱病流行の際常々懷中すべし熱病感染の患を有ることなし

●又方　若し病人見舞等に往き病人に接するとき前方の藥を少し鼻の口へ塗り付置くへし病ひ傳染の恐れ有ることなし

●懷胎さす妙藥　人參黄芪當歸川芎芍藥地黄右水煎して一日に一二回宛平常に服すれは懷胎さすこと妙なり

●乳の出る妙方　穿山甲細末となし毎日目方一匁宛酒にて三回に分ち服すべし乳を出すこと妙なり

●消渴を治する妙方　天瓜粉地黄麥門冬甘草葛づ餅米少し右六味水煎して服すべき功能あること妙なり

●又方　夏枯草甘草三味水煎〳〵て服用すゐ〳〵甚だ妙なり

●陰門のかゆきを治する妙方　杏仁灰ゑ燒きあつき内ゑ綿ゑ包み陰中に入れ日に三度交換すゐ〳〵治すること妙なり

●陰虱を除く奇方　煙管の中のゐにを熱湯にて解き能く洗ば即坐に死すること妙なり

●色を白く〳〵てきめを細かに〳〵艶をよくする新法重曾三匁芒硝三匁白砂糖二匁(蛇退皮)二匁以上の四品を細末となし〳〵糠を凡そ三匁の中に適宜に加へ糠袋に入れ入浴又は湯を遣ふ時使用すべし

但し一日二三回以上使用すべし

●日に照さるゝとも日にゐけ黒くならざる新法　上々酢の中に(ゑんどう)少量を混和し〳〵我が思ふ所に塗り付ゆ置く時は日にゐけるゐとなし〳〵

●西洋美人水　之れはぬる程色を白く〳〵きめを細に艶をよく〳〵化粧下に用へて白粉の艶を出ゐ顔はゐゆとならぬ新法

蒸溜水一合の中に(甘油)一匁宛投〳〵能ゐ混和〳〵て使用すべし

●絶食の新法　松の木の甘肌三拾匁第根二拾匁茯苓拾匁人參三匁糯米五合右五品を能く細末ゐなし〳〵水にて能き

程にこね丸るめて團子の如くなゝ蒸籠にて能く蒸ゝ一日に壹貳個宛之を食すれは空服となくなく能く饑を濟ふとを得る實ゝ奇世の神法也

●中風豫防の妙法　總て男女を問はす中風症の兆ゝ有らんと思ふときは左の藥法を常用ゝて平素ゝ能き氣血を補ひ飲食を節ゝ七情を戒ゝ色慾を遠ざく可ゝ人參細辛各一匁黃芪杜仲熟地黃各二匁甘草五分右六味調合ゝて其の中へ蛇床木目方拾匁を加へ之を七服に分ち一日に一服つゝ水煎ゝて温服をべゝ其の煎じ樣は水五合入て三合に煎ゝ揚け三回に服す可ゝ中症を豫防すると妙なり

●卒中の妙藥　急卒中にて俄然口眼喎み斜めになるゝものには(蓖麻子油)右は左へ左は右へ塗り付くれは即治すること妙なり

●又法　卒中俄に昏倒ゝて言語をること能はさるものには左の法を用ゆへゝ細辛一匁人參五分右二味水煎ゝて温服すべゝ甚だ神なり

●脹滿の神藥　大腹皮五匁麥芽拾匁厚朴拾匁硝石五匁燈心草五匁右調製ゝ分ちて十服となゝ壹服分に水三合入れ二合ゝ煎じ詰め一日に二服宛朝食前と夕食前ゝ服も可ゝ

●月水ゟ不順を治する妙法　圭支桃仁紅花當歸熟地黃

牡丹皮甘草右七味調合〳〵水煎温服すへ〳〵三服乃至七服を服用すれは不順の月水を調ふること甚た妙なり但〳〵煎じ法は一合半入一合に煎〳〵揚げ一日に二服つゝ用ゆべ〳〵

●又方　月水常に不順に〳〵て或は早く或は後れ或は多く或は少なく一定せざるものは此の法を用ひば特効あること神の如〳〵人參阿膠吳茱萸麥門冬牡丹皮香附子甘草右七味調合水煎〳〵て温服すへ〳〵

●こ〳〵けの藥　乾姜一味を能く炒り目方二匁を水壹合半壹合に煎じ一日に二服宛用ゐへ〳〵こ〳〵けを治すること甚だ妙なり

●又方　續草根紫蘇葉黄栢人參右四味調合常の如く煎じて服す可〳〵

●安産はゐめ藥　當歸川芎太腹皮益母草右四味常の如く水煎〳〵て温服すへ〳〵如何なる難産と雖も容易く安産すること神の如〳〵

●産后の諸病を治する妙劑　人參當歸香附子川芎紅花甘草右六味調合水煎温服すべ〳〵産后の諸症に効あること妙なり

●血の道一切の妙法　川骨拾匁桂辛五匁紅花五匁乾姜五匁茯苓七匁母丁子三匁右六味細製とし〳〵目方貳匁五分を壹服とな〳〵之を布の袋に入れ最初二三回は熱き白

湯にて振り出〳〵て之を用ひ後煎じて用ゆへ〳〵産前産后血の道冷へてみ其他男女風邪等に用ひて特効あること神の如〳〵

●子宮一切の新法　子宮病は名醫も之が治療を愁ふる所なり然れども左の方法は一種特別の新法にして其の奏効甚だ神の如〳〵偖て其法は(カリヤス)(但〳〵染物に用ゆるもの)目方百目を長さ一寸位に切り之を風呂桶の中に投じ始め先つ水半荷許を入れ充分に能く煎じ出し〳〵后ち能き程に水を入れ九十五度許の湯加減とな〳〵一日に四五回づゝ入浴すへ〳〵而して湯をり出てたるときは身体の冷めざるように温たゝかになる〳〵又別に(カリヤス)目方拾匁の中へ甘草少量浓加へ水一升の中へ投〳〵七合に煎じ揚げ湯の間々に之を茶の換りに〳〵て一日の間に飲む可〳〵而して右の湯を日々に温たゝめ毎日入浴するとき は其の輕き症は三日如何程重きも七日間入湯すれば治せること實に妙なり

●驚風の神藥　全蝸五匁葛粉五匁辰砂壹匁麝香壹分右四味極細末と〳〵極小粒の丸藥とな〳〵一回に五粒宛一日に三回服す可し驚風一切及ひ五疳に用ひて効あるおと用ひて知る可〳〵

●さなだ虫を下す妙劑　絲虫を容易に治するには綿馬ヱキス目方五分を適宜の水中に投〳〵其儘水と共に空服の

時に用ゆべし然るときは其の根を絶つことと實に神の如

明治廿一年七月二十日印刷
明治廿一年七月廿八日出版
同　廿二年九月廿八日再版

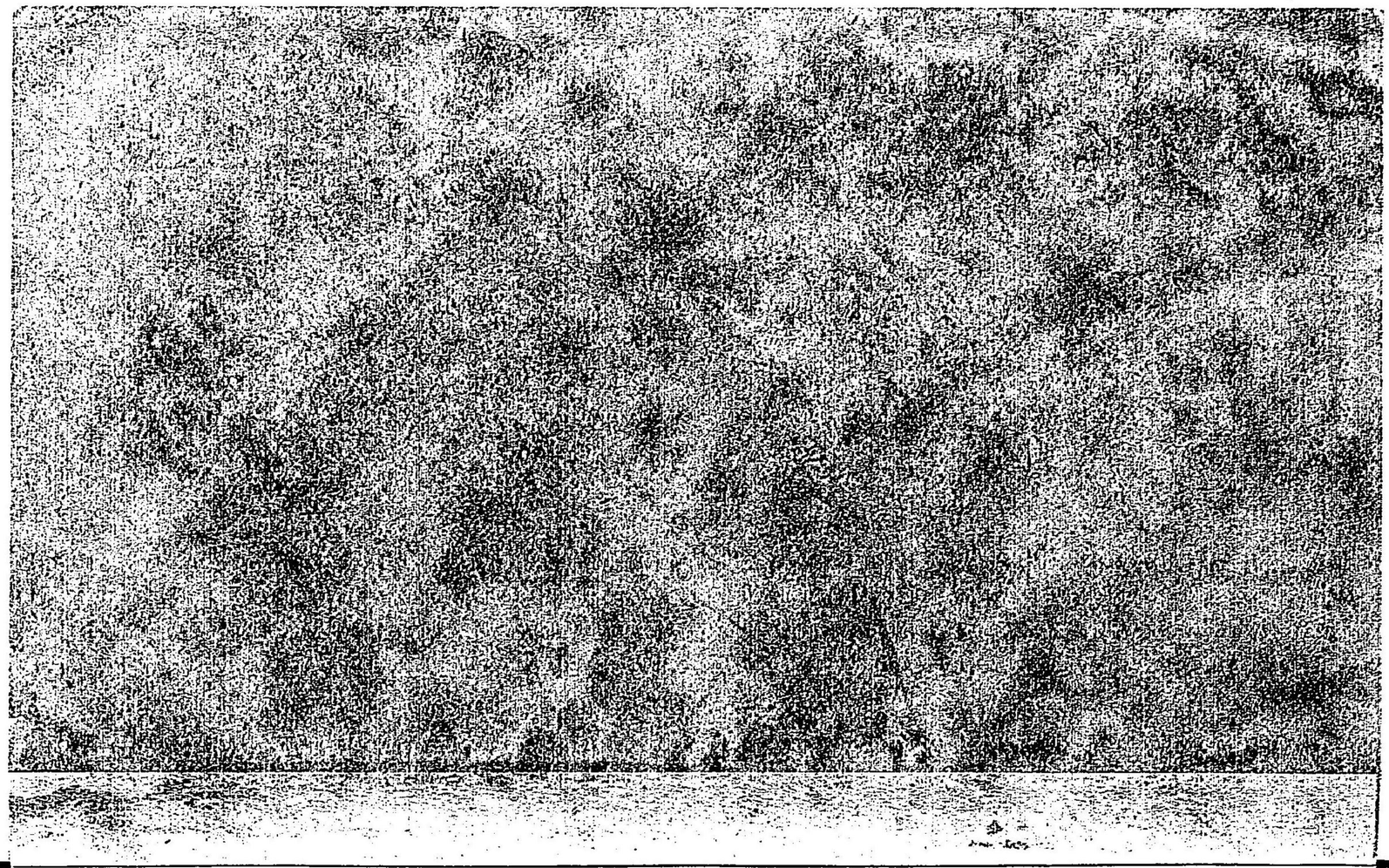
定價金壹圓

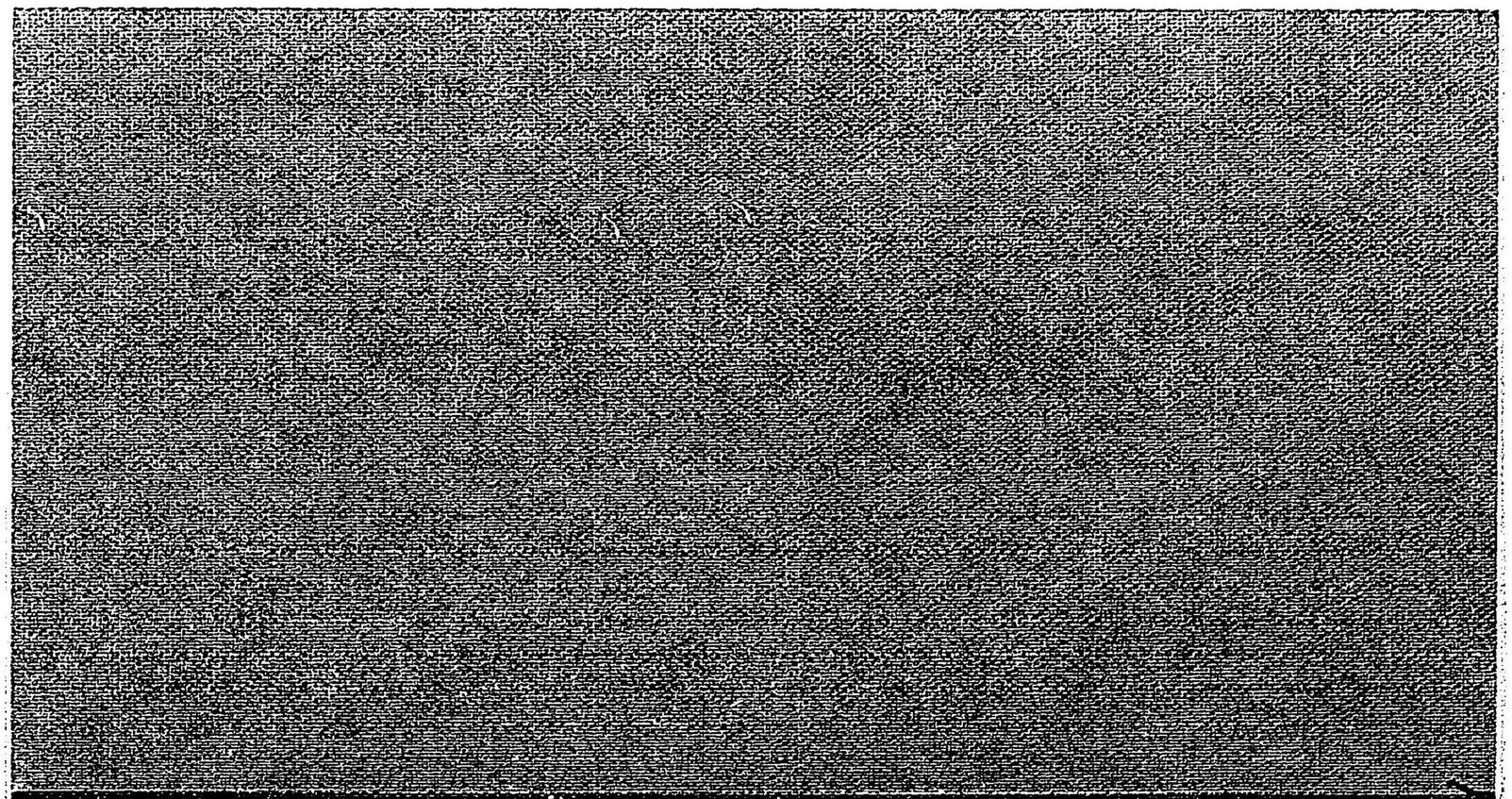
大阪市北區相生町三百五十三番屋敷
編纂者　福岡種

大阪市北區相生町三百五十三番屋敷
發行者　土橋喜輔

大阪市東區上難波南之丁廿四番屋敷
印刷者　吉村武右衛門

版權所有





特25
262

実地研究
内外医法 鍼灸薬秘伝書

国立国会図書館

058899-000-2

特25-262

鍼灸薬秘伝書（実地研究内外医法）

福岡　種／編

M22

CBC-0479